（毎月一回十五日發行）

大日本蠶絲會報

第百貳號

明治三十三年十二月十五日

（明治廿七年八月廿五日第三種郵便物認可）

目次

●論說
●火日本蠶絲會第六回品評會に就て　農學博士　酒匂常明
●蠶種檢査法に就て　衆議院議員　降旗元太郎
●蠶種貯藏と蠶蛆驅除　横木喜三
●蠶繭の外景に於ける雌雄の特徴　農學士　石渡繁胤
●絲絲と掛懸との關係　山木竹藏

●寄書
●北越に於ける桑の其品種　久保田德一郎
●蠶桑を研究せんと欲せば先づ蠶體解剖を學ぶべし　池田榮太郎
●蠶桑の天然　阿部常藏
●養蠶家たるもの須らく慎孔を大にせよ　阿河江藤兵衛

●統計
●十月中生絲類及耕物類輸出入對照表

●問答
●桑切に紫雲英を蒔く件に就き質問竝答●桑葉に附着せる白粉に就き質問竝答●蠶兒飼養の件に就き質問竝答●飼育中外氣利用に就き質問竝答●乾湯の適度に濕度算出法に就き質問竝答●秋蠶種貯藏法に就き質問竝答●蠶病救治法に就き質問竝答●口明き繭に就き質問竝答

●外報
●組織生絲市場及組織物製造業●佛國輸入商の羽二重檢査所設立に對する希望●上海蠶絲商況●佛國製絲業奬勵金の生絲製産力及工女の賃銀に對する影響●清國山東省千八百八十九年黄色生絲及柞蠶絲産出高

●雜報
●幹事の出張●宮城支會大集會●審査例則●自家用蠶種及組製蟻蚕に就て●米國大統領の當撰●人造生絲の盛行●新設の蠶絲業組合●第八回全國蠶絲業大會●蠶蛆驅除の効果●養蠶社第四回蠶種共進會●生絲不況の一原因●養蠶講●人事雜報

大日本蠶絲會事務所及會堂建設要旨

本會は去る明治二十五年四月の創設に係り歳を閲すること既に十箇所及へること茲に九年にして今や會員は無慮五千有餘名の多きに達し支會の設立を見ること其發達の速なること蓋し此種の團體中未曾有の事業なりと謂ふへしなれは固より氣運の然らしむる所なるへし而して本會か創設以來克く幾多の困難に耐へ以て今日の改進を盛を致せるは外なら特因する諸君の熱心と斯業に對する諸君の意を表するの所なりと雖も是れ本會か特に有志諸君に負ふ所の信を深くし亦多大の志望を達せんとするの方今運隆盛なるに際し一金一本會はひとり之を從來の如く一内外形勢の變遷に伴ひ益々其の發展を圖るの必要を感し之を實行せんとするの時に當り本會か克く斯業界の屬望を曠うせさるの責任に向ひ遠く前途を顧みるに斯業界の前途は多難なるのみならす亦運命の如何を卜するの時に當りてはこれ相當の覺悟を要するの秋なりと謂ふへし

明治三十三年十二月

一建築費概算は左の如し
金五千圓　事務所及會堂二階建五十坪建築費
金壹千圓　品評會及大小集會に要する諸物品設備費
一建築設計は寄附金前項定額に滿つるを待て之に着手するものとす
一寄附金は金五拾錢以上たるべし
一寄附金は俗宜の銀行爲替に取組まるゝか又郵便爲替なれは神田淡路町郵便受取所渡しに振込まれ本會に宛てゝ送らるべし
一寄附金は總て日本橋區萬町第百銀行に預託し嚴に之を保管すべし
一寄附金をなしたるものには謝狀若くは紀念章を贈與し且つ其金額及氏名を錄して永く本會に保存す

大日本蠶絲會

本會は明治二十五年四月の創設に係り歳を閲すること既に十箇所及へること茲に九年にして今や會員は無慮五千有餘名の多きに達し支會の設立を見ること其發達の速なること蓋し此種の團體中未曾有の事業なりと謂ふへしなれは固より氣運の然らしむる所なるへし而して本會か創設以來克く幾多の困難に耐へ以て今日の改進を盛を致せるは外なら特因する諸君の熱心と斯業に對する諸君の意を表するの所なりと雖も是れ本會か特に有志諸君に負ふ所の信を深くし亦多大の志望を達せんとするの方今運隆盛なるに際し一金一本會はひとり之を從來の如く一内外形勢の變遷に伴ひ益々其の發展を圖るの必要を感し之を實行せんとするの時に當り本會か克く斯業界の屬望を曠うせさるの責任に向ひ遠く前途を顧みるに斯業界の前途は多難なるのみならす亦運命の如何を卜するの時に當りてはこれ相當の覺悟を要するの秋なりと謂ふへし

明治三十三年十二月

一建築費概算は左の如し
金五千圓　事務所及會堂二階建五十坪建築費
金壹千圓　品評會及大小集會に要する諸物品設備費
一建築設計は寄附金前項定額に滿つるを待て之に着手するものとす
一寄附金は金五拾錢以上たるべし
一寄附金は俗宜の銀行爲替に取組まるゝか又郵便爲替なれは神田淡路町郵便受取所渡しに振込まれ本會に宛てゝ送らるべし
一寄附金は總て日本橋區萬町第百銀行に預託し嚴に之を保管すべし
一寄附金をなしたるものには謝狀若くは紀念章を贈與し且つ其金額及氏名を錄して永く本會に保存す

大日本蠶絲會

◎事務所及會堂建築資金寄附報告（第十三回）

左の諸君は本會事務所及び會堂建築の擧を翼賛せられ各頭書の如く寄附せられたり

明治三十三年十二月

大日本蠶絲會

金七圓	山梨縣	内田文四郎君	金參圓
金五圓	群馬縣	大河原茂平君	同
同	同	松平銀太郎君	同
同	同	荻野千代吉君	同
同	同	市川竹十郎君	同
同	長野縣	工社	金武圓
同	同	松城館合資會社	同
同	同	六文錢合資會社	同
同	同	宦田館	同
同	同	羽田桂之進君	同
同	東京府	關口八重吉君	同
同	群馬縣	岩井龜太郎君	同
同	長野縣	合資會社本六工社	同
同	同	白鳥谷資會社	同
同	群馬縣	入野小左衛君	同
同	同	富田縫吉君	同
同	同	新參之輔君	同
金壹圓	神奈川縣	田島德二君	同
同	新潟縣	田中虎治君	同
同	同	大野拾太君	同
同	同	齋藤嚴吉君	同
同	同	水戸部恒之助君	同
同	同	村山清吉君	同
同	同	廣田信太郎君	同
同	同	木島彬君	同
同	同	柳澤又市君	同
同	同	近藤榮太郎君	同
同	同	富澤寛君	同

金壹圓	群馬縣	三俣愛藏君	金五拾錢
同	同	角田大學君	同
同	同	岡田孫三郎君	同
同	同	折茂純一君	同
同	同	堀口嘉平君	同
同	同	片山才吉君	群馬縣
同	同	田口長次郎君	同
同	同	須賀源太郎君	宮城縣
同	同	瀬下清吉君	山口縣
同	同	福島藏之助君	鶴岡武七君
同	同	大井菊松君	原源太郎君
同	同	戸塚五郎作君	同
同	同	黒崎善作君	田島新八君
同	同	志村玉吉君	宮城縣
同	山梨縣	田中元七郎君	遠藤善吉君
同	同	鷹野甚兵衛君	鶴岡武七君
同	長野縣	田中增七君	
同	香川縣	岡田美代次君	

●正誤　本會報第百壹號本欄三頁下段九行橋本倉次郎君の一行は同頁同段二十行福田庄作君の次に列記すべきの誤り

大日本蠶絲會報第百二號

（明治三十三年十二月）

◎論說

◎大日本蠶絲會第六回品評會に就て

大日本蠶絲會特別會員農學博士　酒匂常明

本編は酒匂農學博士が大日本蠶絲會第六回品評會褒賞授與式に際し、演述せられたる祝詞なるが、頗る傾聽すべきものなるを以て、特に本欄に納むることゝなしぬ、讀者之を諒せよ

私は本日席末に列するの榮を得ましたに付きまして一言祝辭を申述べる積りでございます、此大日本蠶絲會の創業の時は私は承知して居りましたが、其節からして此會の目的は唯一の蠶絲業改良發達のことであつたと信じて居ります、少しも他に意味も無ければ考へも無い、只純粹に蠶絲業の改良發達を圖つて行く會であつたと信じて居ります、且又爾來其方針で會務を進行して居ることゝ承知して居ります、此節は既に會員も六千名近くになり、會報も亦連綿として百號の數に登つたさうであります、斯樣に盛大になると云ふのも畢竟此目的が國家の爲にもなり、民益の爲にも申分の無い目的であつて且又其會務の取方が純粹なる方針を持つて居るからであらうと存じます、深く其事を祝し益々其方針を以て着實に此業の改良發達を圖られんことを希望します、それから今回の此品評會に付きましては先刻審査長からして御報告もありました通り私共除り此種紙なり繭なり絲なり見分けることに慣れて居らぬが極く素人の目にも優等なる出品の如くに思はれます、此間巴里の博覽會から歸つて來た人の話を聞きますのに御承知の通りに家畜で一番良い物を產出する所は英吉利である、其英吉利國の動物の出品は實に世界に冠絕して立派なものであつて殆んどそれに優劣を附けて宜いか、どれを賞與から省いて宜いか分らぬで殆

ど皆賞與を得たと云ふことである、此蠶も矢張り家畜の一種に見て宜い、只身體が小さいと云ふだけである、それで家畜は各國に產しますが、英國は右のやうに卓絕して居る、蠶も佛蘭西なり伊太利なり支那なり埃地利なり隨分養つて居ります、併ながら日本は是等の諸國と比較して先づ少くも互角の位置は有つて居る、日本の蠶も尙ほ進んで英吉利の牛馬羊豚に於ける如く世界に卓絕するやうに希望します、蓋し本會の目的を益々進行せられたならば結局さう云ふことも空望ではなからうと存じます、今日此出品の優等なることに感じまして其事を述べ、且又今回出品の優等なることに付て深く祝する次第であります

◉蠶種檢査法に就て

（大日本蠶絲會第六回小集會演說）

大日本蠶絲會特別會員　農學士　降旗元太郎

午前の式場に參列するとを得ませなかつたのは甚だ殘念でございますが、此小集會場に於て斯道誘掖の局に當らるゝ先覺諸君及び熱心なる實業家諸君に御目に懸ることを得たのは自分の光榮でございます、實は先日吉池君から御話がございました當時自分も聊か此蠶業に當つて居ります際に研究致しましたことの一二を諸君に申述べて教を聞きましたならば時是れ金、殊に實業家に取つて大切な時間を費して此壇上を汚しまするも必らずしも不都合には非ざるべしと考へて居りましたが、近來非常に多忙でございまして寸隙も無く、今日午前にも伺うと申上げて置きながら只今漸く參列する程のことでございまして手許に十分なる調べも致して置きませぬ、殊に近來は腦髓を外の方に向けて居りますから支離滅裂のことを申上げて諸君の御疑を惹起さしむるは却つて御無禮であらうと心得ますが故に、今自分は單に第十五議會に提出せんと欲する所のことを幸の折柄でございますから諸君に一應要點だけを申上げて若し私の申上げる要點が間違つて居れば前以て其事を御申送りを願ひたいと思ふのであります、尙ほ自分の申上げる事の以外に肝要の點があつたらそれをも前以て御敎示を受けたいと云ふ希望で蠶種檢査法に對する一端を申述べたいと思ひます

第一、此蠶種檢査法と云ふものが今日に必要なのは何が爲である乎、平素机上の空論を以て實業自然の發達を箍束するのは宜くないと云ふ議論を以て居る私がなぜ檢査法の大體に就て贊成をして居つてさうして第十四議會に於て多少の修正を加へんとする手運びをしたかと云ふと、他の側面に斯樣な眞理がある、自然の發達と云ふことを枝道に到らしめないやうに　富士山に登らうとする人が山の中腹に於て白雲が咫尺を辨ぜざる程に取卷いて居る中を案內者無しに絕頂に達しやうとするのは覺束ない、頂上の見透しが附いた後は如何やうな障害物があらうともそれを踏破して進むに差支へない話であるが、今日我國の蠶絲業の實體は人々が悉く頂上まで見据えが附いて居るとは言はれない、此遺憾ある故に互に常に寄つて種々研究をせねばならぬ、種々の敎を先覺者に受けねばならぬ實況でございます、然る以上は此道案內を何かに取らねばならぬ、從つて學者の發明、當業者の實驗等を斯樣な小集會場若くは雜誌上に於て廣く一般の當業者に知らしむる必要もある、蠶種檢査法と云ふものを法律の制裁力に依つて當業者一般に施行する必要もあらうと思ひます、而して此蠶種檢査法がどれだけの効果を擧げるかと云ふと、繭層とか形狀とか云ふものゝ粗惡などは固より言ふまでもないことであつて、檢査法の眼目は微粒子病の撲滅にある、蠶業に於て懼るべきは必ず微粒子のみならざるとは人の衞生上に於て懼るべき病氣は必らずしも遺傳病のみならざると同じことである、幾多の傳染病の懼るべき一日數千人を斃す慘害は前例尠からぬと同じことである、蠶兒の社會に於ても又種々の傳染病の懼るべきことは微粒子毒の懼るべきより尙ほ甚しきことである、然るに蠶種檢査法に於ては此微粒子毒を撲滅すると云ふ眼目に就て規定あるのみである、尤も是れだけとは申しませぬが眼目は即ちそれである、故に私は蠶種檢査法と云ふ法律の名前を改めて蠶病驅除法としたい、而して蠶病驅除法の中に蠶病消毒のことを加へたい、之が私の第一の希望でございます、是れは悉く說く必要は無からうと思ひます、既に諸君は空頭蠶にしろ、

自殺蠶にしろ其他病毒の擅るべきを知つて居らるゝ而して蠶室蠶具其他に向つて完全なる消毒を施せば是等の病毒を非常に少くする、全然撲滅するは隨分むづかしかうが手順さへ完全に盡したら之を撲滅することは出來る、故に法律の制裁力に依つて相當の手續きを盡せば大いに此病毒を減ずることが出來て年々繭の收獲を減ずる災害を大いに減ずることゝ信じます

第二、自家用蠶種も總て此蠶病驅除法の制裁を受けしむることにしたいと思ひます、第十四議會を通過致しました蠶種檢査法に於ては自家用種にはあの法律を適用せぬことになつて居る、而して若し自家用種を讓渡す場合には制裁がございます、併し不正なる當業者は如何やうにも此制裁の網を潛ることが出來る、社會幾多の表面に嚴重なる法律があつても之を潛る所の惡人が蹤を絶たざると同じやうに自家用の名稱の下に事實販賣の蠶種を製造して居る、或は出飼などゝ云ふ名稱を以て現に私の鄉里の長野地方に於て自家用蠶種の名稱の下に千に達する枚數を製造して居る、それは巧に法律の網を潛るやうに組立てがしてある、一面に正直なる蠶種製造家が此法律の制裁を受けて孜々として蠶病驅除をして居る、他の側面に於ては不正なる者がさう云ふ名稱の下に病毒の繁殖しほうだいに蠶種を製造して居る、此病毒は蔬墻の下から一般の當業者に蔓延して參るのであるから恰も傳染病流行の場合に之を異面目に屆出る者に向つては完全なる消毒を施して豫防法を實施しても隱藏者は屆出でがないと云つて打棄てゝ置く如くである、人の傳染病は之を取締る道もあるが、先刻申した自家用種に就ては法律の網を潛るのを取締る道は隨分困難でございますから私は斷然自家用蠶種も總て法律の制裁を加へることにした方が宜いと考へます、之に就て種々の理由を私の手許へ今日までの間に殆ど八九箇所より申越した人がございますが、其理由の如きは總て採るに足らぬものと心得て居ります、尙ほそれより有力なる御說があれば御申越しを受けたいのでございます

第三、蠶蛆の豫防驅除の大切なることは蠶種製造家も養蠶家も悉く承知して居ることでございますが、さて其實行がむづかしい、蠶種製造の盛なる土地に於ては蛆蛹を一升幾らで買上げる其費用を郡費で決議した郡もある、又縣費で買上げる決議をしたものもございますけれども、實効が擧らぬ、何となれば蠶種製造期節に於て極めて高い賃錢を拂つて多くの人夫を使つて居つても尙ほ足らぬと云ふ忙い場合に此蛆を拾集めて居る暇は無論無い、或は郡費縣費を以て一升十錢に買上げることにしても賣りに來る者が全く無い、而して蠶蛆驅除の實効は少しも擧らぬ、故に私は之を法律の力に依つて蠶蛆を一つに取集めさせるが宜いと思ひます、是れは甚だ無理だと言ふ人も多いが、年々蠶蛆の害が著く進んで來る結果の近き例は私は信州の松本でございますが、松本に於て秋蠶種を製造する本場は私の鄉里淺間と云ふ土地で其附近を流れて居る女鳥羽川沿岸の桑畑は以前中々有名の步桑地でありました、然るに數年ならずして此女鳥羽川附近は淺間地方で年々蠶種を製造するのが多いと同時に蛆が非常に澤山出て其蛆が蠅に化し桑葉に產卵する、其產卵せし桑を食つた蠶兒は即ち蛆に寄生せられ非常に蛾の步が落ちるとか云ふことになつて來る、斯の如き次第で今日は女鳥羽川沿岸に於ける桑畑は全く步が附かないと云ふ程の言草の下に葬られんとして居る、そこで更に南の方二三里隔つて居る奈良井川沿岸の桑園を淺間の者が段々開墾して桑を植えた、所が其土地の者も淺間の者に桑を取られて居るのは馬鹿〳〵しいから其附近に蠶種製造家が非常に出來た其結果、今日では奈良井川附近の桑畑も段々步が落ちる、而して今度は更に轉じて西の方梓川附近に桑畑を開いたが、其梓川附近の桑も近頃は蛆害がある、更に進んで鳥川附近に桑畑を拵へたけれども、近來は餘程良い場所でなければ蛆害が多いと云ふ傾きがある、斯樣な有樣は獨り松本地方の實況ばかりでない、天下到る所蠶種製造地方は皆蠶蛆に害せらるゝのでございます、斯の如き有樣で輾轉して參つたならば蠶種製造地は全く今までの方面と異なる方面、即ち北海道などにでも種屋を求めねば得られぬことになる、是れは無論事業の競爭の上に於て先へ進んだ縣が少しく手拔けになつて居る爲に新に進んだ地方に於て最も完全なる學理と最も勤勉なる精力を以てさうして先

の鳥より後の鳥が先へ行くと云ふ働きをして長所を比べて彼の長より一段長からしむる働きをするのならば競爭最も可なり、普通の働きをして居る地方はずん〳〵置去りにして新に大に伸びて行く地方に最も多大なる利益を得せしむるのは寧ろ私の希望である、私は物産に一定の本場無しと云ふことを十數年前から唱へて居る、信州の種屋を逐散らして完全に新に進んだ蠶種製造家が其地を以て蠶種製造の本地として働くは私は無論熱望する所ではございますけれども、今の如く撲滅し得べきを撲滅せずして一種の害蟲又は病毒の爲に一地方を非運に陷らしむるばかりでなく、天下到る所害毒が風靡して關西の端、北海の濱に及ぶことは當然である、故に其源に於て之を防止するは當然のことゝ私は思ひます

それで種々の方法もありますが、左樣な細節目に就ては茲に申上げる必要も無い、兎に角蠶蛆を驅除する方法を法律の力を以てするのである、即ち先刻申した三箇條は第一は蠶病消毒の事、第二は自家用と云ふ言葉を法律の中から除去る事　第三は蠶蛆驅除を法律の力に依つて實行する事、此第三實行は全部に就てはございませぬ、例へば製絲家が自身買取つた繭を運搬する途中に於てぽつ〳〵蛆がこぼれると云ふ風では矢張り懼るべき蛆害蔓延の一原因であるから之を防止する道を講ぜねばならぬ、私はそれに對して考案もありますが、此問題に直接の關係が無いからそれは申述べませぬ、兎に角蠶種檢査法に關聯した蠶病驅除と云ふ問題の上から矢張り此第三に於ける驅除のことは法律の力に依らしむることが必要であらうと思ひます、此三點を以て只今の蠶種檢査法を改正致しますと名稱まで改めねばならぬ、其名稱は蠶病驅除法とする心得でございます、只要點だけを諸君の御耳に入れたのでございまして、是れより以外に必要なことがあれば承りたい、現に此頃桑樹の萎縮病に就て話もあつたが、それは蠶種檢査法を改正しやうと云ふのに直接關係が無いに依つて其方面は斷つて置きました、若し直接此下に諸君の御心附きがあれば御申越しを願ひます、尙ほ只今申述べた要點に就て不都合の廉は御申越しを受けたい、尙ほ之に就ての細節目は自分も十分取調べも致して居ますからそれ等は御尋ねがあれば御目に懸けても宜しうございます、私は非常に多忙で多く午前の六時から午後十一時頃までは宅に居りませぬから留守をさせて置く書生に就て御問合せになつても宜しうございます、只今私が申述べましたことは極めて一部分のことでございます、他の當業者が種々の方面より斯業の發達を圖らるゝに就て私の考案も一二ありますが、前に御斷りをした如く十五議會に私が提出致します意見を諸君の御耳に入れむが爲め御邪魔を致したのでありますから今日は是れで御免を蒙ります

◎蠶種貯藏と蠶蛆驅除

大日本蠶絲會技藝委員　練木喜三

編輯は練木技藝委員が宮城縣蠶業者の爲に出張せられたるもの、然るに其說く所敢て嚮新なるにあらずと雖も、能く其要領を得、時節柄參考の資となる點からされば、特に移して茲に載せることゝなしぬ

精撰無毒の蠶種も保護宜しきを得ざれば養法如何に熟練なるも好結果を得ることゝ難し就中蠶種の貯藏は最も周到なる注意を要す而して其目的は濕氣を避けて十分寒氣に感ぜしめ不時の暖氣を避くるにあり故に之を貯ふるには西乃至南の日を受けざる濕氣のなき土藏の二階或は北向の廣間又は寺院の堂宇等最も適當の場所とす蠶種は種箱に納め長持或は種箱より稍々大なる箱に入れ適宜の臺を設けて箱の下にも空氣の流通する樣になし置くべし而て其種箱は桙製なれば蠶種壹枚に付一寸以上の餘地あるを要す故に箱の大さに準じ上下左右前後共に一寸の餘地を存すれば種紙と種紙との距離は六七分にて足れども成るべくは廣き程宜し木材は桐を最上とすれども止を得ざれは松樅等總て香ひなく能く乾燥せるものを撰ぶべし若又適當の貯藏場なくば貯藏箱を製して貯ふべし此の箱は內外兩側の間を四寸許り明け其の間に鋸屑を能く煮能く乾かして詰め蓋の合せ目に厚き布を張るべし此際若し製造に間に合はぬものは前陳の趣旨に基き清潔にして無臭の極めて乾燥せる箱に入れ尙上箱に納めて貯ふべし

斯て蠶種は豫め能く洗滌し空氣の流通能き日陰に吊し置きて充分乾燥せしめ其處の溫度四十度以下に降

ること四五回に及びなば何時にても速かに之れを貯藏し晴天寒冷の日に限り毎朝一回暫時蓋を開きて空氣を入換ふべし但し斯の如く嚴重に貯藏せる蠶種は多少發生の後るゝものなれば豫め其心して將に下蟻せんとする日より一ヶ月前遲くも半ヶ月前に取出して催青すべし

蠶の蛆の我蠶業上に及ぼす損害は實に多大なるものにして少しく心あるものは常に痛心之れが驅除豫防に怠らざるべしと雖も素と此害物は蠶業の繁盛に伴ふて其猖獗を逞ふするものなれば蠶業擴張の今日儻かに一人一個の力能く之れが全滅を期するは到底難きことにして若し夫れ現今の狀態を以て推し行くときは斯業の前途實に憂ふべきものあり然るに往々當業者中には蠶蛆の性狀習慣を熟知せざるより道竟潛伏に任じ充分驅除の効を奏する能はざる憾あり依て今茲に蠶蛆の性狀習慣を說き終りに驅除豫防の法を記し當業者の參考に資せんとす

蠶の蛆は春季五月桑葉の四五葉開綻せし頃より現出し桑葉の裏面に一粒づゝ產卵し一葉產卵了れば他葉に移り斯の如くすること十數日に渉り一回に多產するものにあらず故に一頭の蠅能く數百枚に產卵するものなれば其被害の面積も極めて廣大なるものなり蠅は雌雄稍其大さを異にし雄蠅は體長五分翅を左右に擴張すれば九分七八厘雌蠅は長四分六厘翅の開張八分あり且つ雌雄著しく異なる點は雄蠅の腹部兩側面には大なる赤褐色の斑紋ありて尾端稍尖り雌蠅は腹部の斑紋全くなきか若しあるも雄の如く鮮明ならず尾端肥太なるとにあり卵は極めて小にして黑色一見塵芥或は蟲糞の如き觀あれども能く熟視すれば光澤ありて容易に脫せず蠶兒の二眠後より桑葉に伴ふて蠶兒の胃中に達し蓄くして孵化して蛆に化し後ち胃壁を破りて神經球に宿り氣門に轉じて充分發育を遂ゞ故に蛆害を蒙りたる蠶兒の其體側に必ず黑斑を呈するは其氣門に蛆の宿れる徵にして玆に尾端を向け呼吸し糞を排出して其周圍を汚蝕するに由るなり而して蠶兒は始め神經を侵さるゝを以て苦悶に堪ず早く寄生されたるものは節高、頸曲、ちゝい、或は裸蛹等となり宿繭に至らずして斃れ又苦悶の間に營繭せるものは薄繭或は不正繭を營み又上簇に近づき寄生を受けたるものは蛹に化して後ち遂に斃死するに至る故に假令ひ營繭するも其絲量を減じ或は繭質の粗惡なるは免る能はざるなり斯て此蛆發育完成すれば蠶體若くは蛹體を喰ひ破り繭を鑽りて床上に落ち匍匐して間隙を求め是より床下に下り地下三寸內外の處に達し玆に始めて蛹に化し冬期を經過し翌年再び蠅となり飛出で交尾產卵するものなり

(イ)は蠶蛆の化せる雄蠅
(ロ)は同雌蠅
(ハ)は同蛹

從來蠶の蛆蠅は陰濕の地を好む特性ありて產卵の場所も多くは斯る桑園にありとして豫防唯一の策として乾燥にして間潤の地を撰み粗植法を謀りしも蛆害蔓延の日は斯る場處を撰ぶの必要なきが如し古來場桑と稱し蛆害少なき桑園も製種家の增殖するに伴ひ近來場桑の區別なき桑園と化するもの其例尠なからず依是觀之蛆害を免れんとして其場處を撰み或は栽植法に注意するより寧ろ根本的驅除法を行ふに如かざるべし今左に一二の法を記さん

一生繭の賣買をなすものは力めて蛆を逃れしめざる樣の設備をなすべし

二製種家は蛆の發生前擇繭を行ひ撰出繭は殺蛹し種繭は蠶架に排置し棚の下に受幕を設け匍ひ出でたる蛆は悉く集めて燒盡すべし此法は最も行ひ易すき法にして又實驗上極めて奏効あり一頭も餘さず捕獲するを得べし受幕は唐木綿寒冷紗或は紙製にても宜し只大さは蠶座より凡そ一尺以上も長幅共に大なるを要す蠶棚の下二三段竹を除き幕を張り置き時々中央に集まりたるものを拾ひ集むるか或

は幕の中央に小孔を穿ち置き其下に鐵業鑵の如きものに水を入れ其内に落下する樣なし置けば拾ひ集むるの手數なし

三養蠶後大清潔法擧行の際床下に至るまで隈なく掃除して殊に土臺際爐の周圍等を能く搜索して蛹蛆の土中に盤伏せるものを除さゃる樣拾ひ集めて燒棄すべし製種家は殊に此勵行を要す若し濕氣あらば石灰を撒布すべし

●蠶蛹の外景に於ける雌雄の特徴

大日本蠶絲會技藝委員農學士　石渡繁胤

蠶蛾の雌雄は其外貌で明で特に生殖外器を異にして居るのは勿論であるからこれで雌雄は直ちに分る、又蠶見では外貌にて完全な區別が出來ぬが、それが蛹に化すると雌雄の區別が出來るのだ、即ち雌は大きく特に腹部は膨れて腹部の末端が鈍である、雄は小さく且腹部が太くあつて末端が尖て居る、然しこれ丈では雌雄をあやまることがある雄で腹部が太く雌で割合に細いのがある、然るに腹部の末端の環節即ち腹部の第八環節と第九環節と腹面を檢査すると雌では第八環節に生殖器の導管が皮膚に附着した點があり雄では第九環節に其附着點を外面に顯して居る則ち第三圖及第四圖(ハ)の如くである、此生殖器導管の附着點で區別すればどんなに蛹の外景が變て居ても決して雌雄を誤ることはない、此蛹の外景に顯した生殖器導管の位置の異て居ることは餘程面白い事で、蠶見の時でも生殖器の導管が皮膚に附着して居る處は雄で第十二環節雌で第十一環節である其附着點を蛹で外面に顯したのであるそれから蠶蛾の生殖外器のあるのは雄では腹部第九環節であるが雌では腹部の第八第九環節が同一してこゝに生殖外器がある

第一圖

第三圖

第二圖

第四圖

第五圖

第一圖蛹(雄)の腹面　第二圖蛹(雌)の腹面　第三圖蛹(雄)腹部の末端の腹面　第四圖同上(雌)
第五圖蠶見生殖器導管の附着點を示す

●繰絲と掛撚との關係

大日本蠶絲會技藝委員　山本竹藏

生絲を繰製するに際し撚を施すことは必要の條件にしてタヴェル式とシャンボン式とを問はず其撰を一にするなり蓋し此繰絲上に撚を施す結果として生ずる利益は凡そ左の如し

一絲條に附き上る水分を飛散す

二一絲條となるべき各絲縷を能く密着抱接せしむ

三絲縷相互は圓形に近き形となる傾あり

四類の幾分を壓着する傾あり

五絲條甚しく細ければ切斷し易し故に細ムラを防ぐの傾あり

以上の如き効用あるが故に再繰に使にして色澤の美を保ち且絲力の強靭を全ふするものなり然るに此撚掛は鍋絲上に於て比較的注意せられず且工女は此掛撚の數少き時は繰製容易にして切斷少なく所謂小康を保ち得るを以て色澤等の罰點を免れ得べき限りは成るべく掛撚の數少きを希ふものなり又其掛撚の方法は指頭にて施すものなるを以てタヴェル式裝置の如きは二口繰なれば二口又三口繰なれば三口の撚の數一定し難く一は長く一は短く大抵皷行の觀を為すを常とす（裝置により此長短の差著しからざるもあり）シヤンポン式にても十人十色となり易し是れ要するに掛撚の數を嚴格に整へしむるときは繰製する絲量に影響を及ぼすと又工女も精細なる注意を要するを以て多少の苦情を訴ふると又從來掛撚に關して重きを置く人少なかりしを以て自然何處の製絲場も疎略に流れたるものなるべし

然るに曩きに米國絹業協會は日本生絲の粗製を以て掛撚の不完全に基くものとなし歐洲に於ける生絲業者も亦抱合の悪しきを以て本邦生絲缺點の一に數へたり今や本邦生絲の改良は刻下緊急の問題にして生絲の改良中掛撚法は最も注意せざるべからざるの事に屬す然れども從來疎略にせし製絲場にて今急に嚴命を下すときは一時多少の苦情あるべきは勿論なれども現時の狀況苦情あるを悞れて躊躇するを許さゝるものあり而して工女とても少しく慣れば格別困難の事にあらず凡そ物事は困難なり一時損ありと思惟する事にても斷して之を行ひ少しく慣るれば左程苦情もなく一時の損は長き利益となるなり又一日幾回となく掛くる撚なれば注意さへ忘らざれば大概其目的の正鵠を誤らざるに到るものなりとす

シヤンポン式或はタヴェル式の角度勾配等に關し種々利害得喪を論議するものありと雖も要するに此角度勾配を適度ならしむるは撚を適度ならしむる所以なることを忘るべからず元來タヴェル式即ち皷車を上下に裝置し絲條を逆に戻らしむる等の手數をなすは撚の作用を全からしむる爲に外ならず故に裝置備りて利用全からざるが如き事あらば裝置は實に無用の長物たるを免れざるなり又シヤンポン式に於ける釣り鈎の上下左右の距離は撚に働かしむるの適度を有するものなり夫れ斯の如くなるを以てタヴェル式にてもシヤンポン式にても其裝置の寸法は掛撚に就て最も密接の關係あるものなれば製絲家たるもの宜しく注意を加ふべき所なりとす蓋しタヴェル式の皷車裝置に關しては本會報第九十九號に記述せるを以て今茲に贅せざるなり

從來撚に就ては其適度を指すに其長さを以てするあり或は其數を以てするあり例之は何すと稱し幾百と呼ぶが如し然れども詳細に之を論ずれば此撚の數又は長さは全く裝置によりて異るものにして撚數少くして長きものあり短くして撚數多きものあり嘗て予の實驗に據れば太絲にして撚數三百なるも一寸に對する其數は裝置の異るによりて三十五弱のものあり四十三強のものあり蓋し甚しき精密なる事は實際業務の上に行はれ難きものなれども予は切に製絲現業に從事する人の深く此の撚の効用を知得し始終念頭に掛けられん事を望むものなり固より撚を掛過ぐるときは切斷多くして繰製し難きは免れざるの數なれども繰製し得べき限りは多きを可なりとす撚の少き絲は前陳の如く色澤を失するのみならず手觸り柔かく容積膨大にして其絲縷の密着適當ならざるを示すものなり

抑も製絲業上改善を加ふべき事にして早急に効果を收め難きもの尠からずと雖も掛撚の如きは晨に改良を施せば夕に効驗を得るものにして其實施の如きも僅かに是れ一擧手一投足の勞を費すのみに過ぎざれば世の製絲家たるもの須らく茲に猛省する所なかるべからざるなり

寄書

北越に於ける桑の良品種

新潟縣南魚沼郡大沼村
大日本蠶絲會員　久保田　德一郎

江南の橘は河を越えて變じ胡北の馬は北風に嘶くとかや凡そ動物と植物とに論なく氣象風土に由りて性狀を異にするは生物學の通規なり故に甲地に於て優良無比と稱せらるゝ品種も之を乙地に移植するときは毫も其種たるの性狀を脚出せざること之あり予桑樹に於て大に其然るを感ず抑北越の地たるや東南武面峻岳を擁し西北一帶寒潮に瀕す此故に氣象の變動甚しく特に冬季に至ては以南諸國と著しき隔差あるは中央氣象臺の調査に徴して明白なりとす加之雪量多くして古來越の雪と呼稱せられ奥羽地方と殆んど雪線の低降を均ふせり而して一系山脈を隣する信毛中越の地位高隆なるに拘はらず降雪少なく隨て其堆積すると無きを觀れば氣象の變化風土の遷轉實に驚歎すべきものあり

然り而して玆に北越に於ける積雪期を略敍するに年に由り處により少差ありと雖も平年大雪に初まり翌年穀雨に終る遇きは四五尺より深きは一丈内外に及ぶ而して晩秋耕起前に至れば將萎倒しと呼び桑樹の滿身積雪に壓着埋了せられ枝條の陽光を受くべきなく外皮の氣温に接すべきなし唯多少の地熱に依りて根部を保護するあるのみ而して春陽方に復し爰雪漸く融解すれば彼此一時に發芽催青するのみならず梅櫻共に開き桃李同じく謝すの變象を呈するは實に他國人の夢想だも及ばざる所ならん吾が北越に於て桑樹を栽植するに當り經驗上其品種の早中晩を分類するの必要なき所以是れ之れに由る夫れ氣象風土の異常概ね斯の如し故に他國に於て絲業奏々たる瓦桑も懸養愛育の績なく多くは廢棄若くは枯損の患を招き能く繁茂を遂ぐるもの罕なり是れ即ち多雪地方に適する桑種の甚だ稀なる所以にして其の撰擇の困難なる蓋し玆に存す乃ち其の枯死の原因及び管理に於る特點の如きは更に他日の續稿に讓らん

元來桑種攪擇の目標は收葉の多寡と葉質の瓦否とにあるは論なしと雖も抑亦其資質に準據する所なかるべからず蓋種に得失あり性に强弱あり約言すべからずと雖も成長速かなるもの〻軟弱にして遲きもの〻硬强なるは自然の理なり太だ伸暢し易き市平、赤木等の多雪地方に繁殖せざるは是を以てなり今や桑樹の品種は殆んど數十百を以て數ふ然るによく北越に適應し最も廣く栽培せられ蠶桑家の希望を恣にするは山中高助にして之に次ぎて上州桑(別名根小屋)鶴田(一名六郎高助)の如き亦瓦品種として屈指せらるゝと雖も恐らくは此種の右に出づるもの無かるべし

山中高助は岩代國田村郡の原産に係り葉形圓大なして肉厚く光澤ありて柔軟なり伸長頗る速にして晩生種に屬す蓋縮病に罹り易き嫌ありと雖も樹性頑健なるを以て寒害雪害に堪へ收穫多量なり而して北越に於ては開葉早き在來種(俗稱地桑)を以て稚蠶の飼料に充て漸次此を專用する常慣あるが如し以上の如き得點を具有せるが故に一瀉千里の勢を傳播し今や縣下到處之が產殖を見ざるなく桑樹の代名詞は高助と云ふも不可なきに至れり我蠶數年來の實驗に由れば山中高助は地桑に比して四、上州桑に三、鶴田に二割以上の增收あるが如し意ふに山中高助の北越に適せるは風返しの信州に赤木の奥羽に十文字の關東に西ゟ原蠶業試驗場試驗成績に徴すれば此桑は魯桑に比して滋養分と蛋白質とを含むこと少しと雖も脂油の量は却て多く且つ蠶體營養上不要なる纖維の量鮮少なるを以て滋養力は魯桑より較々微弱なるも全般の成績上魯桑の上位を占めたりと云ふ亦以て山中高助の眞價を知るに足るべし

之れに據りて是を觀れば本桑は唯に多雪地方に適應するを確認せらるゝのみならず又他の各地を通じて品位優良なる品種たるを證すべきなり

●蠶學を研究せんと欲せば先つ蠶體解剖を學ぶ可し

横濱生糸檢査所
大日本蠶糸會員　池田榮太郎

用重きものは之を學ぶに從て其精を要し用輕きものは之れを學ぶに從て其精を要すること少し是自然の原則にして敢て怪むに足らざるなり蠶體解剖の如きは蠶學中最も必要なるものにして之れを學ぶに又最も困難なり故に之れを研究するには特別なる技能と精緻なる觀察を要せざるべからず、總て生物は高等なるに從ひ其組織器官愈々複雜を極むるものなれども個體發生の始めに於ては何れも皆單純なる一細胞より桑椹、嚢狀、原腸の三期を經過して漸々變化を遂げ種々複雜なる器官を生ずるに至るものにして以上三期より進んで變化するの程度如何に因りて內部器官に簡複の差を生ずるに至るものなり然れども稍高等なる生物に至りては其陸棲たるとを問はず器官の構造に異同の差こそあれ之れを有する點に至りては互に相違なきを見るべし彼脊髓動物に於ける牛馬猫犬の如きも無脊髓動物なる蠶兒の如き

も消食器あり循環器あり呼吸器あり運動器あり感覺器あり生殖器ある等殆んど攝む處なし去れば人體の解剖を攻究するも吾人が蠶體解剖を學ぶも同一目的に由り同一器官に就て攻究するものなり而して人畜の如き大なる動物體に就て解剖を攻究すると蠶兒の如き一小動物體に就て之れを攻究するとを比較する前者は大抵肉眼的に之れを爲し得べしと雖ども後者は殆んど皆顕微鏡的に之れを調査せざるべからず加之生物は下等なるに從ひ生理上の分業少く器官の數少くして一層錯雜なるものの例之蠶兒の皮膚は特り外物の刺戟に抗抵するの作用を爲すのみなら寸筋肉の附着點となり宛も脊髓動物の骨格の用を兼ぬ又背脈管は特り心臟の用をなすのみならず大動脈の用を兼ぬるが如し殊に蠶兒の如き昆蟲類に於ては脊髓動物に見る能はざる所の變態を行ひ其器官に種々なる變形を來すに至りては其研究の困難なるや多言を要せずして知るべきなり

凡そ生物の何たるを問はず解剖學の目的とする所は生物體内部器官の性質、構造、配置及び其作用を明かにし所謂其生理を審にし之れより發する病理を講らんと欲するにあり生物天賦の機能を知り健康體に反する異狀の現象を明かにせざれば生物個體の健否を論ずる能はざるなり解剖學は恰も大工の家屋を建築し器械の構造を明かにせざるべからざると一般生物體の生理病理を攻究するの梯にして生理及び病理を究めんと欲せば必ず先づ解剖學を攻究せざるべからず良工が家屋の建築に巧なるも構造法を詳かにせるに因る機關師が機械の運轉を圓滑ならしむるも亦器械の構造を明かにせるに因る吾人亦蠶兒を健全に生育せしむるの理を究めん治療するに妙を得るも人體内部の構造を明かにせるに因る吾人亦蠶兒を健全に生育せしむるの理を究めんと欲せば先づ蠶體の解剖を詳かにせざるべからず若し然らずして其妙を得るものあるは是れ熟練の結果にして學びたるにあらず慣ふ所なり宛かも彼鶏鴨の人爲に於けるが如く又猿猴の人爲に於けるが如し此等は單に模倣に巧なるのみにして毫も眞意を了解せざるなり眞意を了解せずして開蒔の結果を覆るは是れ偶然の現象のみ決して之に信頼する事能はざるなり農家は能く作物に肥料を施し之れを培養し之れを收穫するの術に巧みなりと雖ども其植物體組織を審かにせざるを以て其生理を解するの能なし故に或は意外の因作を演し其之れに發生せる病狀の如きは全く其罪を天候に歸するも多し又或農家が玉蜀黍の花穗を切斷すれば種實の成熟豐かなりと聞き未だ受精作用の了らざるに先ち已に花穗を切截して全く種實の不成熟を來し慨みを傳授者に負はしめたりと如斯は皆其理を解せずして之れを慣ふたるの過失なりとす吾が蠶業社會に於ても之れと揆を同ふするものあり徒らに生理及び病理の必要を說くも其階梯たる解剖學を修めざるに於ては其演ずる所鶏鴨猿猴の行爲と豈撰ぶ所あらんや殊に飼育術のみを講ずるものに至りては彼農家の玉蜀黍の花穗を切斷すると同一憂患を惹起せざれば幸ならんのみ

蠶體解剖の攻究困難にして其必要なること已に斯の如し然るに世の蠶業學理家を以て目せらるゝもの多くは飼育術及び病理の必要を呼號し蠶體解剖は養蠶上に必要なきものゝごとなす何ぞ其事理を識別するに昧きの甚しきや固より一般餘業的の養蠶家に至る迄如斯學理を修むるの必要を見ずと雖ども苟も斯業生理を研鑽し何に因りてか病理を攻究するを得んや本を學ばずして末を修めんと欲するも抑も亦難ひ哉想ふに解剖の不必要を論唱するの己れ其學を修めざるの致す所にして未だ其必要を感ぜざるべし然れども吾人をして之れに處せしめば己れ其學に通ぜざる時は須く他人の研究の助けを借るべく敢て不必要を唱へて後進諸氏の之れを學ばんとするを妨ぐるを要せざるなり而して未だ其必要を感ぜざると謂ふに至りては蠶學の必要を認めざるものと謂ふも之を辯疏するの辭なかるべし

已に外山石渡兩農學士が實驗蠶體解剖を世に公にせられし以來斯學攻究者に幾何の便益を與へたるか又此便益を與へたると共に我蠶業改良に幾何の進歩を與へたるか特に近來學者間に蠶體生理及病理の攻究に齟齬たるに至りたるも實に此書の現れたる以來のことたるを知るべしされば此書の如きは眞に本邦の蠶學に一大裨益を加へたるものと謂はざるべからず予は偏に南學士の功勞を謝すると共に斯業の爲め大に慶せざるべからず又吉池氏が退化氣門を發表せられたるより如何に斯學に鞭達を與へたるか又生理上の感念を惹起せしめたること少なしとなさず蠶體解剖の蠶業界を益すること此の如く甚だ大なるものあり然れども之を攻究するに非常の困難を要するものなれば尚未だ研究の至らざる所尠しとせず故に希くは蠶學に從事するものの益進んで之れを研究し生理及び病理の攻究に便を與へ蠶業上の利益を增進せられんことを予は鼓に斷じて言はんと欲す蠶業の學理は蠶體解剖研究の度に伴ふと雨後蠶學に志すの諸氏若し予と感を同ふし進んで斯學の邃奥を極めんと欲せば先づ蠶體解剖より學ばれんことを望む

福島縣伊達郡梁川町
大日本蠶絲會員　阿部常藏

◉蠶桑の天然

宇宙間の萬物何れか天然の制を受けざる草木の萠々たる禽獸蟲魚の蠢爾たる人類の遂々たる同じく皆自然の規則の下に生死し活動しつゝあるものたり子々の徹より泰山の大に至るまでこの規則の外に出づる能はざるなり人類の智識といひ學理といふものは皆天然の規則を窺知したる謂に外ならざるを知る近頃文化の進歩と共に學術發明等の發達誠に著しく文學に技藝に政治に實業に各巧を闘はし精を競ふに至れるも言を換ふれば天則が人類によりて應用さるゝに至れるに過きざるなり

輓近本邦の實業界大に面目を改め長足の進歩を爲し紡績業寸燐の如き東洋に雄飛して輸出の要部を占むるに至れり其他新規近創の事業にして大に目を刮すべきものありこれ蓋し世運の進捗に隨ひ人口の增加及び奢侈の進歩に伴ふて避くべからざる大勢たりこれなくんば遂に天下社會の生存を期する能はざれば

蠶絲は我邦唯一の物産にして輸出品の冠冕たるは言を俟たざるなり而して之を他の事業に比較する時は其改良進歩の度甚だ遲々たるを見る何ぞや斯業者が舊模型に拘泥し故慣習を守株することのみに屈托し大に眼識を廣めて面目を改むることを努めざるに由る見よ天下の養蠶家は今尚ほ桑園は霜害と桑病とに苦められ飼育は收獲の不充分と經費の增加とに困難しつゝあるは明かなる事實にあらずや予聞大に茲に見るところあり蠶と桑との天然に鑑み勞力及費用の少くして收獲の倍蓰すべき理由と實驗とを得たり敢て淺陋を省みず大方に告白して是正を乞はんと欲す

蠶桑の自然的作用を觀んか蠶は桑葉を化して絲を造るの動物にして桑葉則ち蠶、蠶則ち絲たるを以て桑ありて後蠶あり蠶あり初めて絲あるものたるは言を須たざるなり故に蠶は桑の發芽と共に自然に發生孵化し桑葉繁茂の季には多化蠶あり桑葉の漸く凋落せんとするに當り蠶も亦卵に歸して次年の發生を待つを以て蠶と桑とは相共に始終して離れざるの天理を有するものに似たり而して本邦の養蠶界は多く一化生則ち春蠶の飼育にのみ熱中して夏秋蠶を顧るものなくよし之れありとするも夏秋蠶に給する桑葉は春蠶飼育に剩せしところのものか或は春芽の發育を害せざる目的を以て摘取するに過きざるを以て多少の規模經營を以て其秋蠶を飼育する養蠶家或は夏秋蠶專門の養蠶家は殆んど稀なり隨て世間の養蠶家は夏秋蠶を度外視するの觀なき能はざるを見る何んぞ其研鑽講究あらんや

骨て支邦蠶書中原蠶及び單に蠶なる稱呼あるを見たり原蠶とは夏秋蠶即ち多化生蠶の稱にして蠶とは春蠶即ち一化生の謂なり而して原蠶とは蠶の原種といふに同じく蠶とは人工を加へ變種せしめたるものをいふ意なるを見るこれ大に注意すべき事とするなり其品位と經濟の如何とは暫く別問題として育蠶の原理を考究せんと欲せば先づ原蠶の性質より論ぜざるべからず見よ夏蠶なるものは春期に於けるものよりは夏季に於ける二化生のものが品質優良にして收獲も亦加倍するは一般養蠶家の承認するところにあらずやこれ桑葉と始終すべき天理を有する蠶卵が春季に於て纖軟なる桑葉を給せられたるが爲めに盛夏肥大なるものを以て飼育せられたるものに比して品質も劣等に收獲も減少すべきは天理の自然また爭ふべからざるものありて存するを見る抑も原蠶の飼育は夏期に於て行ふべきものたるは夏蠶の異名あるに徴して明かなりとす蠶の天性と桑の自然とが由來相始終すべきものたらば夏秋に於て最も能く相適ひ相須つの自然あるを認む蓋し養蠶業上大に講究を要すべき問題たるや疑あるべからざるなり

蠶見とれ桑葉との道理果して信ならば吾人は宜しく春夏秋の三季中そのいづれの季が最も桑葉の繁茂肥大を致し且ついづれの天候が最も育蠶に適するかを講究するを要す予夙に茲に見るところあり多年實驗の結果左の成蹟を得たり

(一)時間の利用と生産費の節減　蠶見は桑の發芽と共に發生し桑葉の繁茂中多化生蠶あり桑葉の凋落と共に卵に歸するものと故に蠶の性質たる偶り春期にのみ飼育すべきものと限れるものにあらず之を專業として行はんと欲せば最も桑葉の繁茂せる時季と育蠶に適する氣候とを撰ぶを可とすもし之を副業とする時は春夏秋の三季中農耕の閑なる時を撰び隨意に之を行ふことを得て大に時間を利用することを得べし今又春季一回飼育法を廢して春秋又は夏秋の二季或は春夏秋の三季に適宜區分して飼育する時は蠶室蠶具人夫等總ての經費を節減して大に生産費を減少することを得るなり

(二)飼育の安全　春期には霜害の虞あり一朝天候破和降霜の不幸を見んか春蠶の全部若くは一部を放棄せざるべからざるに至るべし雖も夏秋季には此憂なきなり且や氣候は春季の寒暖不定なるが如くならざるを以て蠶室に火力を要すること少なく隨て室の構造に於て大に省略するを得るものとす殊に春蠶にありては飼育の數三四十日を要するも秋蠶にありては永くも二十六七日を出でざるを以て勞力の節略容易ならずとす人或は氣候炎熱にして蠶の憂ありと想像するものあらんかなれども予は九十度以上の炎

暑中にあるも種蠶より三眠迄は更に困難なるを憂へざりし若し四眠絶食中非常なる炎暑に際會するあらば春季寒冷なる時に炭火を用ゆる反對に蠶室に氷塊を入れ氣温の低下を計るべし如何なる暑氣にても容易に温度低下を見るは猶寒冷を火力にて補ふの理由に同じきなり蠶室蠶具の消毒法及び蠶種の精撰は春蠶に同じ寧ろ一層の注意を怠るべからず

(三)收獲の增加　春蠶は壹反歩桑園より平均一石の繭を收むること甚だ難しといへども秋蠶に於ては同一の桑園より二石の繭を得ること極めて容易なりとす尤も春蠶に要する桑園は春季に於て伐採し年内大に生長の時日あるを以て其秋蠶に餘せし桑園にして年内再生の時日短きものと早春に於て發芽の狀態に差あるを見て以て秋蠶飼育は桑園殘害するものとおもひ做すもの多しといへども蓋し春蠶に給すべき桑園と秋蠶に要すべき桑園とを全く區分して培養する時は桑葉の收獲に於て秋蠶用園は却て加倍の桑葉を收獲し得べきなり何んとなれば春蠶にありては稚蠶の飼育は桑芽漸く蔬口の軟桑を採摘し秋蠶には稚蠶より豐大なるものを以てす故に春蠶にありては四眠迄に既に過半の桑園を採摘し盡すべきも秋蠶に在りては四眠迄に採摘僅に四分の一に過ぎざるなり今假りに春蠶壹石の絲量を壹貫匁とし秋蠶を八百匁にするも終局桑園一反歩に割り出でたる產出額は秋蠶に於て六百匁の多量あるを見るなり

以上予が多年の實驗に由れるものなり若し夫れ學識あり實驗あり資力ある斯道の士にして深く研讃講究せられんにはその成果はいよ／＼多大なるものあるを信ず世間或は夏秋蠶は品質劣等にして春蠶の如く優良ならずとして排斥する人多しといへども夏秋蠶たりとて一般に劣等なるものにあらず種類に由り春蠶の眞品に匹敵するものあるにあらずや況んや春蠶種の優良なるものを寒冷なる風窟に貯へ晩夏早秋に發生せしむる方法あり又人工越冬法を以て春蠶種を其年度内に發生せしむる術あるに於てをや夏秋に優良なる蠶種を飼育するを得ずといふは大なる謬見にあらざるを得んや之を要するに舊慣に拘々として新見地を立つる能はざるの徒は改良進歩の友に非ざるなり今日はとれ何種の事業を問はず舊套を脫却して大に新面目を發展すべき時機たるや言を要せず而して所謂舊套を脫却し新面目を開展するの道人爲の屑々たるを離れ天然の眞成に近づきつゝあるを見るべしとれ予が天然の蠶桑說ある所以なり

●養蠶家たるものは須らく眼孔を大にせよ

山形縣西田川郡念珠關村
大日本蠶絲會員　寒河江　藤兵衛

蠶業の我が國家經濟に至大の關係を有する重大の事業なることは今更余蠶の言を要せざる所にして是れが振興を計るは即ち國家に對する國民の義務として協心同力以て改善の方法を講せざるべからざるものと信ずるなり

然るに世間幾多養蠶家の中眼孔甚だ小にして唯一時の利己心に迷ふて將來の大利を忘れ一面には協同の必要を說きて切りに改良を謀りつゝあるにも拘らず一面には更に之を顧ざるのみならず却て無用の煩と爲す者あり或は鑑爭の結果他人の豐作を視て喜ばざるが如き者往々聞く所なるが是れ實に余輩の解する能はざるものなり

然れども是れ當に普通の養蠶家にのみ止まらしめば又敢て深く咎むべきに足らざるも而かも斯業の豐凶を双肩に擔ふ蠶種製造家として或は斯くの如き小眼孔の徒なきを保すべからざるなり自家に一歩の桑園もなく漫りに野生の桑葉にのみ依賴し養蠶を營むもの或は創業二三年にして比較的製種の利あるを見俄かに製種家となり其の飼育方法の拙劣更に採る所なきにも拘らず得意の帶智狡辯を以て甘く自家製種の効能を吹聽し巧に素人を瞞着するが如き者あるに至りては實に是れ蠶業界の病患にして余輩の杞憂に堪へざる所なり

今や日進月歩諸事萬端悉く改善に趣くの世運に際し豈獨り蠶業のみ舊套を墨守して可ならんや宜しく之が改良を謀らざる可らざるなり而して其の改良の點々あるべしといへども事に前後あり物に本末あり建築の構造を堅固ならしめんと欲せば須らく其の基礎を堅固にせざるべからず草木の繁茂を望まんと欲せば宜しく其の根柢を培養せざるべからざるが如く蠶業界の振興を計らんと欲せば先づ第一着に所謂根原たる蠶種業に向て充分の釐革改良を加へて以て遺憾なからしめ而して漸次其枝葉たる養蠶、製絲に推及するを順序其當を得たるものと信ずるなり

若し夫れ蠶絲の根原たる蠶種にして不良なるものありとせんか如何に熟練なる養蠶家と雖も到底良繭を收むる能はざるのみならず歲々失敗を重ね收支相償ふこと能はずして可惜桑園も遂には稻田に變ずるに至るべし故に蠶種製造家たる者は須らく眼孔を大にして他養蠶家の一歩上位に進み敢て巨利を望まず最も着實に最も誠意に採種の業に從事せられんこと余輩の深く切望する所なり

製種家が善良なる蚕種を製造して之を養蠶家に頒ち養蠶家は是に依て年々遺作なく良繭を收めて之を製絲家に賣り製絲家は之を以て善良なる生絲を製造し以て海外華客の信用を維持すると云ふが如く此三者各其職責を守り互に一定の報酬に安じ誠心誠意以て事業に勉勵したらんには改良の奏効豈難きを愛んや要するに蠶業は國家的事業にして其需用單に一國内に止まる者に非ず汎く世界の市場に向て競爭をなさゞるべからざるものなれば蠶業家たるもの徒に兄弟牆に鬩くの秋に非ず眼を世界の大勢に注ぎ一般に國家てふ觀念を腦裡に刻し一致協力以て之が振興を計らざるべからざるなり聊か卑見を陳べて以て猛省を促すこと爾り

統計

十月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表

（大日本外國貿易月表に據る）

種目	三十三年十月分 數量	三十三年十月分 價格	三十二年同上 數量	三十二年同上 價格	三十三年一月以降累計 數量	三十三年一月以降累計 價格	三十二年同上 數量	三十二年同上 價格
輸出 生絲	五〇一三斤	四〇、七四三・一四円	一、一九一斤	一、一四一・一〇円	五〇〇、一四六斤	四〇、七四三・一四円	一、一九一斤	一、一四一・一〇円
輸出 製糸	六八一、九六三	三三、九三二・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	六八一、九六三	三三、九三二・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸出 屑絲	三〇一、六八一	一六、一四一・一〇	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	三〇一、六八一	一六、一四一・一〇	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
輸出 蒸蒸	一、一四一斤	一、一四一・一〇円	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	一、一四一斤	一、一四一・一〇円	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸出 屑繭	一、〇四一斤	一、〇四一・〇〇円	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	一、〇四一斤	一、〇四一・〇〇円	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
輸出 羽二重	一、一四一斤	一、一四一・一〇円	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	一、一四一斤	一、一四一・一〇円	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸出 甲斐絹	一、〇四一斤	一、〇四一・〇〇円	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	一、〇四一斤	一、〇四一・〇〇円	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
輸出 他の諸絹布	五、六六六	一、〇四四・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	五、六六六	一、〇四四・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸出 絹製手巾	三三、七七七	一六、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	三三、七七七	一六、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸出 刺繍絹布	—	—	—	—	—	—	—	—
輸出 他の諸絹製品	—	—	—	—	—	—	—	—
輸出 計	八〇、三三一	四四、七四三・一四	一、一九一・一〇	一、一四一・一〇	八〇、三三一	四四、七四三・一四	一、一九一・一〇	一、一四一・一〇
輸入 蒸蒸絲	四四、一四四	四七、九三一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	四四、一四四	四七、九三一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 生糸	一、三六六・六六	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	一、三六六・六六	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 屑繭	一〇、六六六	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	一〇、六六六	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 繭	四〇、〇〇〇	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	四〇、〇〇〇	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 紬	三三、一六六	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	三三、一六六	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 繻子	三、一四四・四四	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	三、一四四・四四	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 絹繻子	五、六六六	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	五、六六六	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 天鵞絨	四四、六六六	四〇、六六六・六六	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	四四、六六六	四〇、六六六・六六	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 絹天鵞絨	九、七四三	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	九、七四三	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 他の諸絹布	一、一四四	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	一、一四四	一、一四一・一〇	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇
輸入 其他諸絹製品	—	—	—	—	—	—	—	—
輸入 計	三六八、〇四八・六六	三六、六六六・六六	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇	三六八、〇四八・六六	三六、六六六・六六	一、〇四一・〇〇	一、〇四一・〇〇

（參照）自本年一月至十月輸出入品價額連月比較表

月次	輸出	輸入	合計	輸出に比し輸入は 增	輸出に比し輸入は 減
一月	一三、一二六、九六六・六四円	三、六六六、六六・三円	一四、七四四、〇〇一・六四	七、一九一、八一一・七七	—
二月	一四、四四四、〇〇一・六四	三、〇一四、三四〇・九六	一七、四六六、三三六・六六	一〇、四六六、三三六・六六	—

月	円	円	円	円
三月	一六六六、〇四三・八五	三、六四六、八六六・七一	四八、四四六、八五五・八五	四、四四六、八五五・八五
四月	一三、三六九、四九九・一四	三、八四四、四五五・九九	四四、三四、四六六・四四	一九、三四四、四六六・四四
五月	一四〇、三六、九九九・四四	四〇、一三六、一四三・三四	四、三六、〇四二・四四	一〇、一三、三三六・八〇
六月	一三、一四三、一四六・一六	三、四四三、九四〇・一三	三六、九六、〇四六・六六	六、三九九・四四・九六
七月	一三、三三三、四四〇・三四	三、三六一、〇四六・九六	三六、〇一三、四〇六・四四	六、四四六、八四八・三四
八月	一三、九六六、〇四一・〇〇	三、九四四、〇四一・四四	三、九四四、〇四二・四四	三、一四六、〇四〇・四四
九月	一三、四三、一二〇・九六	四〇、四四〇、三三六・九六	四三、四四一、三六六・四四	四三、四四一、三六六・四四
十月	一四〇、九六六、九三〇・〇三	四〇、九六六、九三一・〇三	四、九四一、四三一・〇〇	四、九四一、四三一・〇〇
通計	一六三、九四七、三三八・四四	四四、四四〇、六三三・三三	四三、四四〇、九三三・九九	八六、三四三、三三三・九九

（備考）昨三十二年十月中は輸出二千五百三十三萬九千九百二十三圓八十四錢、輸入二千五十五萬千七百八十八圓三十九錢にして輸出超過四百七十八萬八千百三十五圓四十五錢なり

問答

●桑畑に紫雲英を蒔く件に就き質問

栃木縣下都賀郡中村　大日本蠶絲會員　田波悦兵衛

桑畑に紫雲英を蒔附け之を肥料とする効力は如何

答　大日本蠶絲會技師　農學士　廣瀬次郎

桑畑に紫雲英を播種し其生育するに際し鋤込み肥料とすることは頗る効あり然れども多少普通肥料を加用せざれば永久に繁茂を期し難しとす

●桑葉に附着せる白粉に就き質問

滋賀縣東淺井郡竹生村　大日本蠶絲會員　神丸清藏

先年當地方に於ては晴天少なくして氣候蒸し暑く濕氣多くして蠶兒の食料に當つべき桑葉の裏面に白粉を附着せり而して其厚き大なる葉に多し（當地方にては之をヲクと云ふ）之を嗅げば腥くして蠶兒に食せしむるも飽かず甚しきは少しも食せずして避く若し之れを食する蠶兒には害とならざるや氣候の關係に因りて生ずるものなるべしと雖も豫防法なきものなるや御教示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技師　農學士　野村彦太郎

該病は最初白粉狀をなし次第に黄色を帶び終に暗褐色或は黒色を呈するものなる可し果して然らば一種の病菌より發するものにして質問者の云へる如き氣候には最も繁殖し易し此の如き葉は蠶兒に給するときは害あるを以て之れを驅除するには水五斗に付二百目の硫酸銅及同量の消石灰を能く混化して之れを被害部に適宜の注射器にて再三施すときは大に翌年の豫防法となるべし若し手數を厭はずんば箒に此混液を浸し被害部に施せば大に効あり然れども此混液を施したる桑葉は蠶兒に害あれば時日を經る後にあらざれば之れを給す可らず故に桑葉の十分なる所に在ては此の如き葉を給せざるに若くなし

●蠶兒飼養の件に就き質問

新潟縣古志郡福戸村　大日本蠶絲會員　難波猶七

（一）温度育蠶種家の製造に係る蠶種を低温育即ち天然の氣候（極寒、極暑其他不時の劇變ある時は多少暑酌せるも）に任せて養育せば概して發育不良の觀を呈せしが如し實際右の理由あるものなりや否や

（二）前項の如き方法を以て本年試育せしに收繭非常に小粒に失し（他家四五軒は寒冷と雖も毫も補温せず啻に天然の氣候にのみ任せ飼育せしに余と同樣の收繭を見たり）親繭とは百目に就き約四五拾顆の差を見たり右は氣候の如何に依るものなりや或は他に理由の存するや如何

（三）蟻蠶の黒赤如何に關し飼育の難易甚だ多しとは既に聞き及びたる所なるが蟻色同種のものと雖も土地氣候の差異に依り多少固有の本色を變失することなきや又現時本邦にて飼育せる蠶兒の種類少なからざるも通常蟻蠶の本色は何々なりや各指名して御教示ありたし

（四）北方に面せる蠶室と東方に面せる蠶室とは春、夏、秋蠶を飼育するに關し各利害得失の如何尤も西方は全く密閉し北方に面せる蠶室は東西を壁塗とし南方に面せる蠶室は西北を閉塞して二階作りの構造なり

（五）收蠶以來發育良好にして五齡盛食蠶百頭量八拾匁、八拾五匁、九拾匁、九拾五匁、百目の重量あるものは各收蠶より幾匁、或は幾拾匁の給桑を要するや又右各種の收繭量並に絲量を有するや尤も

種類に依り多少差異あらんも普通のものに就き御示教ありたし

答　大日本蠶絲會技藝委員　田島練平

(一)完全なる温度育蠶種なれば之を低温に飼育するも發育不良なることなきが如し問の如きは其蠶種製造家が飼育中及製種の方法に於て缺くる所ありしなるべし

(二)蠶兒は四齡に達するまでは天然温度に放任すると火力を用ひて補温するとに論なく何れも平均七十度内外の温度を保たしめざるか或は給桑に缺乏せるときは充分なる發育を爲すこと能はず隨て五齡の成熟期に至り營繭するも其形小なるものなり問の如きは右等の關係より生じたる結果ならん

(三)蟻の固有の體色は土地氣候の差異により之を變ずるものにあらず小石丸又昔等の如き種類にありては黑褐色にして一目黑色に見ゆ其他夥多の種類皆多少蟻の體色に濃淡あるものとす

(四)春蠶は爽快温暖なる室を適當とし夏秋蠶は清快涼冷なる室を適當とす質問の文意にては未だ其構造の如何を詳悉し難きも推して之を云へば北面の室にては夏秋蠶を養ひ東面の室にては春蠶を養はゞ不可なからん

(五)赤熟の如き蠶は多食にして體量重く絲量隨て多し青熟の類之に次ぎ小石丸の如き亦之に次ぐものとす今何種を問はず生長極度に對する體量により給桑量收繭量絲量等を推算すれば概ね左の如くなるべし

蠶兒百頭成長極度の體量	同上給桑量	同上收繭量	同上絲量
八十匁内外	五百匁内外	三十三匁内外	四匁内外
九十匁内外	五百五十匁内外	三十八匁内外	四匁五分内外
百匁内外	六百匁内外	四十匁内外	五匁内外

◉飼育中外氣利用に就き質問　塩尻郡殺郡村大日本蠶絲會員　田中仁三郎

飼育中外氣を直接に利用せしと否とは結繭及び絲質に於て差異を生ずるや如何若し生ずるとせば其理由明細に御教示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員農學士　宮原忠正

飼育中外氣を直接に利用すとは蠶室の窓戸を開放して直接外氣を室内に流通せしむる場合を云ふならん其利害は大に外氣の狀態如何に關することにして若し外氣甚寒冷なるが如き時に於て直接冷氣を室内に流通せしむるか或は又外氣甚だ湿潤なるが如き時に妄りに室の窓戸を開き空氣を共に室内に流入せしむるが如きは甚不可なり特に結繭中に於て甚寒冷なる外氣を通ずれば蠶兒結繭の勞を休み繭質不良なるのみならず湿氣强ければ繭の光澤を減じ絲質を損じ解舒を不良ならしめ類節を多からしむ故に此の如き時にありては直接外氣を流通せしめず宜しく間接に之を利用すべし然れども外氣適當に乾きて温度又七十度内外を昇降し蠶兒の發育上最も良好なる狀態にあるときは充分窓戸を開て外氣を室内に流通せしむべし然るときは啻に蠶兒の發育强盛なるのみならず繭質絲質共に良好なり是必竟するに蠶兒の發育成繭上空氣の供給は片時も缺くべからずと雖も其狀態却て有害なる感應を蠶兒に與ふるが如き時に於ては勉めて之を避くるにあらざれば其發育成繭を害するや明かなるものなり

◉乾湿の適度幷に湿度算出法に就き質問　新潟縣南魚沼郡大湯村大日本絲蠶會員　久保田穂一郎

(一)催青、飼育(各齡)、上簇、護種の際に於ける湿度の適度如何

(二)湿度の算出法を詳細教授を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員農學士　辻暢太郎

(一)催青及各齡の飼育中に於ける適當の湿度は七十五度内外なり

(二)乾湿球寒温計を用ひて湿度を算出するの法は先づ水蒸氣の張力を算す即ち左の如し

$$\Pi x = f'(1 - 0.0159(t - t')) - h(t - t')(0.000776 - 0.000098(t - t'))$$

$$\Sigma x = f'(1 - 0.039(t - t')) - h(t - t')(0.000632 - 0.000098(t - t'))$$

甲は湿球の水氷結せざる場合に用ひ乙は其氷結したる場合に用ゆ式中xは求むる所の水蒸氣張力fは乾球の示度(攝氏)t'は湿球の示度(攝氏)なり又f'は湿球の示度に對する最大張力にして其計算法は次の如し

$$F = A10^{\frac{bt' + ct'^2 + dt'^3 + et'^4 + ft'^5}{1 + at'}}$$

式中tは温度(攝氏)にしてA a b c d e f は次の

數を表はす

$A=4.5686869$　　$n=0.0003467458$

$b=10^{-2},3.134366174$　$c=-10^{-5},1.416112423$

$d=10^{-7},1.935388908$　$e=-10^{-9},2.646535103$

$f=10^{-11},1.139377158$

次に水蒸氣の張力より濕度の百分比例を求む次の如し

$$R.H=100\frac{X}{F}$$

式中RHは濕度Xは水蒸氣張力Fは乾球の示度に對する最大張力なり

●秋蠶種貯藏法に就き質問

富士郡刈田郡富村　大日本蠶絲會員　山　家　新　吉

(一)元質春蠶種を貯藏し秋季に取出して飼育し其成繭より採種したるものを秋蠶種となして其期節迄貯藏すと其貯藏方法を御教示ありたし

(二)秋蠶種を風穴に貯藏するには如何なる器物に入れ如何なる保護をなすや且期節は何月頃なるや又風穴に代用するに古き金銀の類を採掘したる鑛穴にても安全に保護するを得るや

答　大日本蠶絲會技師委員　八　田　遠　也

(一)元質春蠶種を秋季迄貯藏して飼育し其産卵を再び貯藏して翌年秋季飼育するものは所謂一化性の風穴蠶種にして之れを黑種と云ふ其貯藏の方法は第二問に併せ答ふべきも本問の如き純粹なる一化性蠶種は收繭の品位優美なるも氣候の炎暑に堪へざる爲め結果の良好は期し難し寧ろ一化性の雌蛾と二化性の雄蛾を掛合せたるものにして多年風穴の貯藏に馴れ自ら習慣となりしものを飼育するの安全なるに如からざるなり

(二)蠶種を風穴に貯藏するには一化性も二化、四化の如きも其法毫も異なることなくして貯藏の時期は小寒即ち一二月の候貯藏室内と外氣と温度均しき時を以て入穴貯藏するを適度とす貯藏器は從來多く用ひし者は左の第一の如くなるも余は本多技師の指示に基き今度第二の如き貯藏器を調製せり第一の構造は厚板の二重箱にして中箱の内法長さ二尺一寸幅八寸五分深さ一尺二寸五分にして桐板を以て造り中に細き枠を組み上下二ヶ通り細く割きたる竹三を分五厘隔位に通し此間に蠶種二枚づゝを竪に差し入れ一箱百枚入りとし蓋は厚紙にて目張をなし外箱は松板等にて周圍凡五七分計りの空隙を付け蓋に目張りをなす

第二の構造は中箱を亞鉛板にて内法長さ二尺幅八寸深さ一尺二寸に造り中の枠は第一の如くにして細く割きたる竹の間に蠶種一枚づゝを差し入れ覆蓋となして能く目張をなし松杉等の板にて外箱を造り亦目張をなす此器は外氣濕氣共に侵入を防ぎ且空氣中酸素の缺乏を告ぐる虞なくして完全の貯藏器なりとす

第二問中金銀礦の空坑果して貯藏の用に適するや否やは實檢の上にあらざれば判じ難しと雖も坑中盛暑の候と雖も華氏寒暖計四十五度位より昇騰せず濕氣少く常に風力强ければ貯藏所として完全なりとす若し暑中寒氣弱きか或は寒暖常なきか又濕氣の多きに過ぐるものは決して用をなさゞるなり

試みに余が管理する富士風穴の概樣を述べて參考となさん

富士風穴は山梨縣西八代郡上九一色村字青木ヶ原富士山麓にある天然風穴にして此地海面を抜くこと四千五百尺風を吹き出す穴は南北二坑ありて共に其深さ何千尺なるを知らず坑中四時結氷鏡の如く或は巨大の氷柱數百本屹立し爲めに暑中も三十三四度より昇りしことなく現に今歲八月本多蠶業講習所技師の實査せられし日の如き殘暑燒くが如くなりしも尙三十三度を越へざりしと云ふ此の風口の凹地深さ凡そ三十尺面積方十間計りの地に板庫を設けて之に貯藏するなり

●蠶病救治法に付質問

福岡縣企救郡中谷村　大日本蠶絲會員　森　山　寛　悳

某蠶事月報中大森農學士の研究に基き空頭蠶膿蠶等に石灰を振り懸け健全に復さしめたりとの記事を見たり

右は齡中何回位撒布して癒治せしものなるや又其他に於ても同樣の救治法を實行して奇効あるを確認せるものありや果して有効なりとすれば其度數等を御教示あれ

答　大日本蠶絲會技師委員　農學士　大　森　順　造

飼育中に水酸化石灰を撒布し諸種の蠶病殊に軟化病(俗に空頭病)の傳染蔓延を豫防し得べきことは拙著

の軟化病研究成績（明治卅二年九月本會報告第八拾七號參照）に詳らかなり爾來講所に於て實驗せし所夏秋蠶飼育の際効果一層著大なり靜岡縣濱名郡蠶業學校に於て本年試みたる成績の如きは其最も著るしきものにて從來被りつゝありし軟化病の苦害を一掃し始めて慾眉を舒ぶるを得たりと云ふ

其方法としては別に困難なることに非ず濕氣深く蠶座の乾き悪しきときか又は病蠶を生じたるときに石灰を一面に物糠の如く撒布するなり撒布するには玩弄具用の金篩の底に微細なる孔を穿ち此内に石灰粉を入れ篩の如くして撒布せしむるなり然るときは蠶兒は勿論桑葉も眞白くなるも決して害を致すことなく能く結繭するに至るものなり宜しく試用して空頭病の慘害を豫防すべし

◉日明き繭に就き質問

兵庫縣城崎郡國府村　大日本蠶絲會員　小林辰太郎

繰絲するに當り日明き繭の生ずるは上簇中の温度に關するか將た殺蛹及乾燥或は繰絲湯及び煮繭湯の温度に適せざる爲めか且つ之を防ぐ方法等委細垂教あれ但し日明き繭に限り其の日の日明きたる方に必ず蛹の頭部を見る

附言我地方は自家製絲する習慣あり而して殺蛹後概ね三四日を經て繰絲に着手す（別に乾燥を行はず蠶架に蠶を布き擦げ置くのみ）而して日を經るに從ひ日明き繭及び上り繭を減少するの傾あり本年上簇の頃は非常の暖氣なりしが繰絲するに當りて日明き繭及び上り繭の多き近年其の比を見ず

答　大日本蠶絲會技術委員　山本竹藏

繰解佳良なる繭を稍や過煮し索緒を手荒くせし結果なるべし繭の繰解の良否は上簇期の温度及び乾濕と大なる關係あるを以て此點より言へば上簇にも關すと云ふを得れども普通の考にては煮過すは即ち繰解佳良なるものにして喜ふべきことなり日の明きたる方に蛹の頭部を見ること多きは蛹の頭部は常に繭層の薄き方の一端に在る故なり宜く前に述ぶる所に據り技術を斟酌せらるべし

◉外報

◉紐育生絲市場及絹織物製造業

（在紐育帝國領事館十月二日公報）

近來當地に於ける生絲市場の不景氣を來したるは其原因一ならずと雖も最も著しきものは當國絹織物製造家即機屋は前季節間生絲相場の昇騰せるときに當り高價を以て多額の原料を仕入れ是と同時に亦多額の織物を製造せしが其製造過多に失したるが爲め織物の相場は生絲相場の昇進に伴ふこと能はざりしのみならず本年四五月以來當國一般商工業社會は既往兩三年間に於ける隆盛の反動を來たし漸く不景氣に向ひたる折柄織物の需用も從て減少せしに機屋は各自の金體と競つて其製造品の在荷を賣捌く爲め次第に直段を引下げ直段の下向と同時に各地方に於ける織物商人は自然其仕入れを差控へ本年秋期用絹織物の如きは注文殆んど皆無の有樣なりしを以て機屋は益々困難となり何れも皆製造を減少し或は全く之を中止する者あるに至れり昨今全國中絹物の製造に使用する機臺にして現に運轉しつゝあるものは僅に其半數位に過ぎずと云ふ

右の次第なるを以て生絲の需用減少せるは實に已むを得ざりしなり然るに今日に至りては機屋中尚ほ曩きに高價を以て仕入れたる原料の殘荷を有するものなきにあらざれども已に之を使ひ切りたる者亦少なからず去れども來春用織物の注文未だ沙々しからざると生絲相場昨今尚ほ下降しつゝあるを以て唯手許入用の分に限り少々つゝ買入れをなすも多量の注文を差控へ居れりと云ふ然るに當地の相場は重もに横濱市場の相場に支配せられ居る有樣なるを以て今後來春用織物の注文續々内地より出で來ると同時に或は横濱市場の相場昇進に向ふことあらんには當地市場に於ける生絲の取引に活況を呈すべきこと自然の勢にして特に來月上旬に行はるへき當國大統領の改選綱々「レバプリカン」黨の勝利に歸したらんには一般實業社會の安心を來たし商工業の景氣恢復と同時に絹織物の賣れ行きも活潑となり從て生絲の需用も大に增加するに至るべしとは多數當業者の期して竢ちつゝある所なり尚ほ當地米國絹業協會に於て近頃發表せる報告書の大意を譯述し左に之を添付して參考に供す

一、米國絹業協會報告

本年六月三十日に終る前季節間は世界各國とも絹織物製造業者並に其販賣業者のため頗る困難なる時期なりしが其初に當りては何人も同年間世界生絲の產額は前年よりも多量なるべきを豫想し各統計家も亦既に昨年七月中に於て皆異口同音に之を前言したりしも前々季節の終即ち昨年五六月頃には世界各市場に於ける生絲の在荷著しく減少せしを以て歐洲に於ける需用者は特に其事實に重きを置き生絲の需用は將來益々增加の傾向あるに當り其在荷如此減少するに於ては相場の益々上進するは免れざるものと考へ

新季節の始まりし以來類りに之を買入れたり然るに當國に於ける絹織物製造家は之と意見を異にし生絲の價に相當する高價を以て織物を賣捌くに困難なる事情あるを以て前途生絲相場の著しく上進すること なかるべしと認め之を買急がざりも昨年夏期中には豫想に反し生絲の相場益々上進の一方に傾きたるを以て當國製造家も亦同季節の半は過に至り急に多額の買入れを始めたるより相場は茲に突飛して例年當市場に於ける平均相場より一封度に付凡そ一弗以上の高値を表はすに至れり

如此事情にて生絲相場の騰貴に伴なひ當國製造家は益々過多の生絲を仕入れ過多の生絲を仕入るに從ひ過多の織物を製造するに至りしが元來當國絹物製造所に於ては設備整頓し必要に應じ何時にても多額の品物を製造し得べき便利あるを以て世界生絲の虛額不足なきにも拘はらず生絲相場前記の如く非常に騰貴したるにより彼等は再び其買入れを見合すに至れり而して此際に當り諸外國より絹織物の輸入も亦增加し本年六月三十日に終る一ヶ年間の輸入價格は絹反物のみにても前年度に比し凡そ二百萬弗即一割八分を增加せり尤も右の增加は生絲相場の上進に基ものにして同年間に於ける該品輸入の重量は四百六十萬封度に止まり前年と格別の相違なし當國に輸入する絹反物は其原料たる生絲の相場平常に異ならざる時に當りては殆んど其半額は從量稅を拂ひ通關するものなれども若し生絲相場の前季節の一部に於ける如く非常に高價なるときに當りては其多分は現稅則により五割以上の從價稅を拂はざる可からず前記一箇年間に輸入の絹織物にして其數量の增加せしは重もに生織物幷に織上げの後染付けたる反物にして即ち「モリンス」及び「ゴーズ」の如き艶目物模樣印刷の爲め輸入せる「フーラード」絹紬及綿入繻子幷に「ヂーン」等なり天鵞絨及「アラッセス」は前年度に比し十二萬五千封度即ち二割二分五厘を增加し其價格に於ては七十五萬弗即五割内外を增加せり前季節中當國一般經濟社會は頗る隆盛なりしも當國絹織物製造業は一封度に付例年よりも一弗以上の高價を拂ひ一季節間に一千萬封度に上る多量の生絲を消化することは頗る困難なることなるが同季節間に於ては前述の如く世界各產地に於ける生絲の供給高は何れも增加し伊太利は前年より增加せしこと五分日本は一割一分上海は三割三分を增加し唯廣東に於て五分を減少せしに過きざりしを以て季節の終に臨みては相場次第に低落し織物製造家は原料の買入れを差控へ其製品販賣の競爭を增加し製造所は多く其製產力を四分の三以下に減少し甚しきは全く之を停止するものあるに至れり前記の如く原料の騰貴と共に自然織物の價騰貴するに從ひ製造家の使用する職工等は其屬主か實際困難の位置に立ち何等の利益をも收めずして唯器械を運轉しつゝある事實を察せず之に向つて賃銀の增加を强請し本年夏期に及びては此種の煩累諸所に起り或る地方に於ては之が爲め全く製造を停止するに至りしなり然るに各製造所に於ては如此唯職工に仕事を與ふる爲め器械を運轉し自ら何等の利益を受くることなく織物の製造を繼續せる有樣なりしを以て同業者間の競爭は益々激烈となり出入相償はす織物の注文者は其約束を取消さんとし商業上の德義は破壞せられ紛議の伸裁幷に破產管理人は到る所に增加せり

然るに當國絹織物製造事業は如此一時頗る困難の狀況に陷ゐりしも今日に至りては已に其難關を通り越したることなれば最早此上一層の逆境に進むべしとも思はれず今後遠からずして其景氣を恢復するものと信ずるなり今や生絲相場は次第に低落して其常態に復したることなれば今後若し其形勢を一變し相場上進の傾向を示すに至りたらんには製造家は目下已に絹織物在荷減少の折柄之を補足する爲め新たに織物を製造すべきにより生絲の注文俄かに增加すべきは必然にして生絲の荷主は其賣捌の困難を免かるゝと同時に却つて製造家に於て其仕入れに困難を生ずるとあるに至るべし本年新季節に於ける世界生絲の產額は昨年に比し凡そ一割を減少し昨年中は上海絲の供給例年より頗る多量なりしにも拘はらず本年は例年に比し却つて減少の見込なり前季間に於ける絹織物の商況は獨り當國のみならず歐洲諸國に於ても亦頗る不景氣にして去る五月及び月中の如きは此等絹織物製造家は一般諸工業の不景氣にして倉敷巴里等よりの注文全く中止の有樣に陷りたるを嘆息せり然るに內外市場に於ける在荷如此過多に陷ゐりたるときに當り當國製造家の爲め賀すべきことは千八百九十七年中に制定せられたる「ヂングレー」關稅法に規定せる從量稅則あるが爲め此等諸外國品が當國に向て輸入せられんとするものを制止せることなりとす此等諸外國品は價の如何に拘はらず早晩何れかの市場に於て賣却せられざるを得ざるものなれと彼の稅則により重稅を拂ふにあらざれは當國に輸入することを能はざる故に我國の製造家は此が競爭を免れたるものなり若し有の稅法なかりせば此等過多の外國品は頗る低價を以て當國へ輸入せられ我國の市場は此がため蹂躪せらるゝに至るべきなりと之を換言すれば從來當紐育市場は從價法稅の爲め他に賣れ路なき歐洲產絹織物の樂賣場となり居りたるも從量稅法施行以來右樂賣場は倫敦及び巴里等に位地を換ゆるに至れり

前季節間に於ては絹物の市場世界各國とも大不景氣に陷りたるにも係はらず其技術上の進步本年巴里大

博覽會に於て大に觀るべきものありしは喜ぶべきことにして繻子天鵞絨大幅物並に『リボン』等世界各國より出品せるものは頗る見事にして之に由り絹織物か技術上如何に精巧に製造し得らるべきかを證明するに足るべし此等の品を一見する人々は素人たると技術家たるとに係はらず皆絹織物か婦人の衣裳を美麗ならしむるに缺く可からざる一大要素たるを認むべきなり又一碼に付三十弗乃至四十弗を價する品物の出來生を一見せしものは何人と雖ども今後絹織物か益々世界到る處婦人の裝飾衣裳として使用せらるゝに至るべきことを疑ふ者なかるべし

當國絹織物製造家は勞働者に多くの職業を與へ且つ其製品を賣弘むるには低價の織物を多量に製造するを以て得策となすが故に前記の如き高價なる織物の製造を期することなし佛國經濟學の大家エミール、ルバソー氏曰く多量の品物を迅速且つ低廉に製造することは世界各國中合衆國に及ぶものなしと我絹織物製造者は即ち此言の事實に背かざることを證明しつゝあるものなり

之を要するに我製絹事業は前季中頗る困難なる位置にありしも我々は將來大に好望を有するものにして若し今後我政治社會の出來事により一般工業社會の進歩に妨害を與ふることなくんば當合衆國に於ける工業が再び其景氣を恢復するに至るべきは決して遠きにあらざるべしと信ずる者なり

世界生絲產額表（六月三十日に終る一ヶ年度間以下皆同し）

一九〇一年見積

佛蘭西	一九〇〇年	一八九九年	一八九八年	一八九七年
伊太利	一、九〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇
瑪太利	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、五九〇、〇〇〇	一、五八〇、〇〇〇
西班牙	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
小計	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
地中海岸	四、三〇〇、〇〇〇	四、二〇〇、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇
上海	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、五六〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
廣東	四、六〇〇、〇〇〇	四、六〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇
横濱	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
加拉太	三、二〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	三、〇三〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
小計	三、三〇〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇	二、九〇〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇
終計	一〇、四〇〇、〇〇〇	一〇、二〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	八、九〇〇、〇〇〇
同封度	二、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇、〇〇〇

生絲輸入表

個數	千九百年	千八百九十九年	千八百九十八年	千八百九十七年	千八百九十六年
價格	一、五〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

太平洋諸港及紐育港に於ける歐洲より生絲輸入表

個數	千九百年	千八百九十九年	千八百九十八年	千八百九十七年	千八百九十六年
價格	二、八〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇

太平洋諸港及紐育港亞產歐洲積出生絲輸入表

個數	千九百年	千八百九十九年	千八百九十八年	千八百九十七年	千八百九十六年
價格	一、四〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇

太平洋諸港及紐育港日本國より生絲輸入表

個數	千九百年	千八百九十九年	千八百九十八年	千八百九十七年	千八百九十六年
價格	四〇、八〇〇、〇〇〇	三一、八〇〇、〇〇〇	二六、〇〇〇、〇〇〇	二〇、八〇〇、〇〇〇	一七、八〇〇、〇〇〇

太平洋諸港及紐育港香港より生絲輸入表

個數	千九百年	千八百九十九年	千八百九十八年	千八百九十七年	千八百九十六年
價格	一一、〇〇〇	一〇、七〇〇	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇	九、四〇〇

太平洋諸港及紐育港上海より生絲輸入表

個數	千九百年	千八百九十九年	千八百九十八年	千八百九十七年	千八百九十六年
價格	一七、六〇〇	一〇、〇〇〇	一二、四〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、四〇〇

輸入生絲種別表

	價格	生絲	屑	繭	紬糸	紬糸繭
一八九五〔封〕	價格	四、六六、三四	四、〇六、七四	三、六六、九九	三、八〇、三六	
一八九六〔封〕	價格	三、三三、六六	三、三三、六六	三、六六、九九	三、八〇、三六	
一八九七〔封〕	價格	八、〇三、六六	一、五、四二、六六	一、三、六六、九九	一、三、六六、九九	
一八九八〔封〕	價格	三、六九、九五	四、五九、六六	一、〇六、七四	八、四、七九	
一八九九〔封〕	價格	一、八九、八五	一、八九、八五	三、六六、九九	一、三、六六、九九	
一九〇〇〔封〕	價格	六、六、三、四	一、〇〇	一、〇〇	八、四、七九	
		〇、六四四、八七	〇	〇	八、四、七九	
		九、六四四、六六	六、六、三、四四	一、六、八、六六	九、九、六四	
		三、六六、一、九九	一、六、六、六六	一、九、一、三七	一、三、六六、九九	
		九、三四、八、九四	五、七、七、六六	一、六、八、六六	一、三、六六、九九	
		四、五七、九、九七	一、九、八、六六	六、五、八、〇〇	一、三、六六、九九	
		一〇、六九、〇、九八	四、七、七、七七	一、〇〇	一、三、六六、九九	

屑絲輸入額表

千九百年	千八百九十九年	千八百九十八年	千八百九十七年	千八百九十六年
七、〇四四	六、六四、〇	七、〇四三	四、六九、〇	五、八四、八
八、四、三四、五	六、三、八、八	六、八、三〇〇	三、六、四六、六	三、六、四六、六

廣東生絲產額表

	一八九〇〇年	一八九九年	一八九八年	一八九七年	一八九六年	一八九五年
第一期	三、三〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	一、六、八〇	一、八〇〇	一、八〇〇
第二期	六、〇〇〇	六、八〇〇	三、六、八〇	二、六、三、三	二、〇〇〇	四、八〇〇
第三期	一〇、四、五〇	一〇、三、〇〇	一〇、三、〇〇	九、一、三、三	四、六、八〇	四、六、八〇
第四期	九、〇〇〇	八、一〇〇	八、一〇〇	七、六、八〇	六、八、六〇	六、八、六〇
第五期	三、〇〇〇	七、六、八〇	七、六、八〇	七、一〇〇	七、四、七〇	七、四、七〇
第六、七期	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	五、九、一	六、四、七〇	五、八、〇〇
山東リレール	七、七、三	二、四、一	………	………	………	………
計	四、七、七、七	四、七、四、一	三、三、四、一	三、〇、九、九	三、九、三	四、九、三
季末有荷	三、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	二、八〇〇	四、八〇〇	四、八〇〇

廣東生絲輸出國別表

		一八九九年	一八九八年	一八九七年	一八九六年	一八九五年
英國	國	一、七三、三	一、三、三	一、三、三	一、三、三	一、三、三
佛國	國	三、一〇、六六	三、一〇、六六	三、一〇、六六	三、一〇、六六	三、一〇、六六
伊國	國	一、九、三	一、一、四六	一、一、四六	一、一、四六	一、一、四六
合衆國	國	二、〇六、五	二、〇六、五	二、〇六、五	九、三、三、五	九、三、三、五
孟買	買	一、〇六、六	一、〇六、六	一、〇六、六	一、〇六、六	一、〇六、六
計		四六、八、七五	四、七、八、五	四、七、八、五	四、七、八、五	四、七、八、五

千九百年上海輸出生絲種別表

		千九百年	一八九九年	一八九八年	一八九七年	一八九六年	一八九五年
英國	國	九、三、三	五、七、九、九	五、三、三	一、三、三	一、三、三	一、三、三
佛國	國	五、七、九、九	五、三、三	五、三、三	五、三、三	五、三、三	五、三、三
合衆國	國	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
印度、埃及		一、三、一	一、三、一	一、三、一	一、三、一	一、三、一	一、三、一
日本	木	二、六四四	二、六四四	二、六四四	二、六四四	二、六四四	二、六四四
計		一、〇	〇	〇	〇	〇	〇

上海輸出生絲年別表

	一八九〇年	一八九九年	一八九八年	一八九七年	一八九六年	一八九五年
季末有荷	四、八〇〇	四、六四、六四	四、七、七、五	四、七、七、五	四、七、七、五	四、七、七、五

輸入生絲國別表

年次	一八九四〔封〕	一八九五〔封〕	一八九六〔封〕	一八九七〔封〕	一八九八〔封〕	一八九九〔封〕
英國	一、七三、三	一、三、三	一、三、三	一、三、三	一、三、三	一、三、三
佛國	三、一〇、六六	三、一〇、六六	三、一〇、六六	三、一〇、六六	三、一〇、六六	三、一〇、六六
伊國	一、九、三	一、一、四六	一、一、四六	一、一、四六	一、一、四六	一、一、四六
合衆國	二、〇六、五	九、三、三、五	九、三、三、五	九、三、三、五	九、三、三、五	二、〇六、五
印度、埃及	一、〇六、六	一、〇六、六	一、〇六、六	一、〇六、六	一、〇六、六	一、〇六、六
日本	四、七、七、五	四、七、七、五	四、七、七、五	四、七、七、五	四、七、七、五	四、七、七、五
計	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
季末有荷	佛國 八、〇四、一、三八	伊國 三、六三、八、六六、三八	女那 一、八、六、三、六四	日本 八、〇四、一、三六	其他 四、八、一、六	其他 一、七、〇、三

輸入屑絲國別表

年次	度格	佛國	伊國	英國	支那	香港	日本	其他
一八九五年封價	度	一、二五六、八六〇	四、八九九、五八〇	一〇、三六四、一七八	五、六六六、四三四	九、五三五	毛、三三六	三、八三五
	格	一、四六六、四四五	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	六三、五五九	六三、五五九	六三、五五九
一八九六年封價	度	四、六七、七六一	四、七七、七六一	一一、三六、三九五	一、四六、四六六	一八、四四、四六一	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六
	格	七五、八四六	七五、八四六	四、八六六、四三一	四、八六六、四三一	四、八六六、四三一	四、八六六、四三一	四、八六六、四三一
一八九七年封價	度	一、二五六、八六〇	一、二五六、八六〇	一〇、三六四、一七八	五、六六六、四三四	九、五三五	毛、三三六	三、八三五
	格	八六六、九五三	八六六、九五三	七、六六六、四三一	七、六六六、四三一	七、六六六、四三一	七、六六六、四三一	七、六六六、四三一
一八九八年封價	度	一、二五六、八六〇	一、二五六、八六〇	一〇、三六四、一七八	六、三三七、〇四四	九、五三五	毛、三三六	三、八三五
	格	一、四六六、四四五	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	六三、五五九	六三、五五九	六三、五五九
一八九九年封價	度	一、二五六、八六〇	一、二五六、八六〇	一〇、三六四、一七八	八、六九九、五八六	九、五三五	毛、三三六	三、八三五
	格	一、四六六、四四五	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	六三、五五九	六三、五五九	六三、五五九
一九〇〇年封價	度	一、二五六、八六〇	一、二五六、八六〇	一〇、三六四、一七八	一、八、四六、四三一	九、五三五	毛、三三六	三、八三五
	格	一、四六六、四四五	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	六三、五五九	六三、五五九	六三、五五九

輸入絹織物種別表

年次	度格	反物「ヴォジ」	「レース」	絹絲	天鵞絨「プラッシュ」	其他	表類
一八九五年封價	度	六、六六六、六六八	一、二五六、八六〇	一、二五六、八六〇	一、四四六、四六六	一、八、三六、六六八	一、八、三六、六六八
	格	四、六六、一六四	一、四四六、四六六	九、六六、四四四	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六
一八九六年封價	度	六、六六六、六六八	一、二五六、八六〇	一、二五六、八六〇	一、四四六、四六六	一、八、三六、六六八	一、八、三六、六六八
	格	四、六六、一六四	一、四四六、四六六	九、六六、四四四	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六
一八九七年封價	度	六、六六六、六六八	一、二五六、八六〇	一、二五六、八六〇	一、四四六、四六六	一、八、三六、六六八	一、八、三六、六六八
	格	四、六六、一六四	一、四四六、四六六	九、六六、四四四	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六	一、四四六、四六六

輸入絹織物國別表

年次	佛國	瑞國	英國	墨國	白國	伊國	歐其他國	日本	支那	其他	計
一八九八年	九、四四五、六六八										
一八九九年	一二、四六六、四四五	三、〇六六、四六六	一、四六六、四四五	三、四四五、九四四							
一九〇〇年	一二、四六六、四四五	三、〇六六、四六六	一、四六六、四四五	三、四四五、九四四							

輸入絹織物國別表

年次	佛國	瑞國	英國	墨國	白國	伊國	歐其他國	日本	支那	其他	計
一八九五年	一二、四六六、四四五	三、〇六六、四六六	一、四六六、四四五	三、四四五、九四四							
一八九六年	一二、四六六、四四五	三、〇六六、四六六	一、四六六、四四五	三、四四五、九四四							
一八九七年	一二、四六六、四四五	三、〇六六、四六六	一、四六六、四四五	三、四四五、九四四							
一八九八年	一二、四六六、四四五	三、〇六六、四六六	一、四六六、四四五	三、四四五、九四四							
一八九九年	一二、四六六、四四五	三、〇六六、四六六	一、四六六、四四五	三、四四五、九四四							
一九〇〇年	一二、四六六、四四五	三、〇六六、四六六	一、四六六、四四五	三、四四五、九四四							

（本會報第百號本欄參照）

●佛國輸入商の羽二重檢査所設立に對する希望

（在里昂帝國領事館十月六日附公報）

目下我商業會議所の建議に係る羽二重檢査所なるもの愈〻本邦に設置せらるゝ場合には左に列記する檢査の方針を取られは取引上利便を得ること少からざる旨在巴里の有力なる羽二重輸入商業より談話ありしを以て參考のため茲に之を報告す

羽二重の標準目方を公定すること

右標準目方に對する差量の最高低率を設くること

増減の目的を以て砂糖、化學的鹽類等を加へたる不正品に對しては檢査證を拒絶すること

織製の缺點、地質の不揃、織耳に跳ある品に對しては相當の等級を設くること

汚點又は黄色を帶びたる品は不合格品として除外すること

荷物の幅及丈尺を檢査保證すること

●上海繭絲商況

（在上海帝國領事館十月廿七日附、十一月九日附公報）

前報後蚕氣益〻宜しく倫敦よりの來電は極て強調の昂騰を示さゝるも徐に九志より九志半さなり最近の來電は十志なり報ぜり而して當市場に於ける需要の速度は更に著しく十月四五日頃金錢觸絆にて三

百九十兩乃至九十五兩にて少額ながら手合出來たるもの十日頃には四百十五兩内外の値へ戻り日ならずして四百二十兩に上れり此如く當市場の相場は需要の度合測られずして浸に騰貴したる觀なりしかならざりしなほ買手は終始手控の樂にて經過し遂に大手合なる事なくして沈靜なりき

十月六日より同十九日に至る間各絲の取引高は凡そ三千五百捆なりと云ふ報關者に據れば當二週間内地よりの著荷高は白絲手五百七十三捆、黄絲九百五十五捆、野繭絲百九十六捆なり（以上十月廿七日附）

當二週間の前週に於ては俄然銀價の騰貴に因り爲替相場に漸變を生ずるや買手は爲に少からざる不利を受くるに至るべきを以て敢て手を出さんとする者なかりしも後週に入り倫敦より蠶絲市場氣配の電報へ金銀騰貴に因り荷法は忽ち高直を唱へ出でたれば荷法は倫ほ手放すとなく敢てせざりしものゝ如く該直段にて取組出來たる分は少額にして當二週間に於ける取引高二千餘捆の内大部分は相場騰貴以前の取組に係れり器械絲は黒昂向需要あり各品に凡そ百十捆程取組行れ黄絲も實行頗る宜しく最登英國郵船の歐洲へ積載し去りたる捆數は凡七百捆に上れりと云ふ其他集絲絲も黒昂及百兩向數百捆の手合あり。此頃内地よりの著荷高比較的增加せるに反し輸出荷は格外多からざるを以て當市の在荷高も頗る多額に達し北肥の如し而して十月二十日より降十一月二日まで内地よりの著荷高を稅關報告に據り調査するに白絲二千四百九捆、野繭絲百三十七捆なり（以上十一月九日附生絲取引相場兩報共畧す）

佛國製絲業奬勵金の生絲製産力及工女の賃銀に對する影響

（在巴黎帝國領事館十月廿六日附公報）

●佛國製絲業奬勵金の生絲製産力及工女の賃銀に對する影響

佛國に於て曩に制定せられたる製絲奬勵金が生絲絲製法に改善を促したる結果として同年以後は從前一日勞働時間十二時間を短縮して十時に制限せられたるに拘らず繰釜の生絲製産力及び繰絲工女の工銀は相共に增進を示すに至れり即ち佛國南方の主要製絲業地たるドローム縣下の斯業上に之を徴するに千八百九十二年以前に於ては繰絲工女は同時に求緒の業をも兼ぬるものなるが同年より千八百九十八年に於ては奬勵金の制定及び其改正の結果として別に煮繭釜を設け求緒を分業となしたるの外繰釜も著々改造せられ三口取二割五分、四口取七割、五及び六口取凡五分を占め千八百九十八年以後は五及び六口取を以て支る製絲業者の數一割を除くの外は一般に四口取を使用するに至れり故に繰製生絲の纖度平均十乃至十二とすれど各繰釜一日の製産力は千八百九十二年前にありては二百八十グラム（凡我七十五匁）なりしが同年後にありては增して三百七十グラム（凡我九十九匁）に達し隨て工女の賃銀も千八百九十二年前に於ける一法（凡我四十錢）より同年に於て一法二十仙（凡我四十八錢）に上り千八百九十七年以後は一法五十仙（凡我六十錢）に達したるなりと云ふ

●清國山東省千八百九十九年（明治三十二年）黄色生絲及柞蠶絲産出高

芝罘は世人の知る如く山東生絲及滿洲産柞蠶絲の一大輸出港なり而て内地より芝罘に向けたるものは郵船にて上海へ宛積送るなり

又山東省内には柞蠶の製絲場許多開設せられ滿洲土人の古來より襲用せる古風な器具を以て製造す而して該省に於ける柞蠶の製絲業は漸時盛大に赴く景況なり今左に芝罘駐在英國領事の報告に係はる千八百九十九年山東省黄色生絲の收穫及び其商業模樣を掲ぐべし

千八百九十九年の山東省黄色生絲の産出高は前年度に比し稍々增加せしと雖も其品位は反つて劣れり而て歐洲の需要盛んなりしが爲に相場は新絲の季節より既に五分乃至八分方上進せしに二三週後急進を爲し一割五分より二割方上りたり」山東省の製絲家は是迄製絲上との改良箇の回轉等に付き注告を受ること屢々なりしも更に顧慮する處なかりしかば同年の市價上進に際せしも七里及び洋法器械製絲等は之に乘じ前年に比し三割五分方も進み得たるも山東生絲は更に利益を受け得ざりき

然れ共同年該生絲の需要は稍々歐洲口へ開け貿人も增加せり斯は畢竟するに廣東の製絲家新絲季節に充分活潑に賣込を爲さざりし爲め山東生絲其地位を代て占有せしが故なり要するに同年同省の農家は其繭に付前年より凡一割方多分の利益を得又製絲家は同樣二割方なり仲買商等の如きも相場の僥倖にも不時の勝賞ありしが爲に望外の直段にて其所有絲を賣却することを得たり

柞蠶生絲に關し「トレート」氏は左の報告をなせり

滿洲に於ける柞蠶の繭産出高は是亦昨年に比し優等の高を出したり又此繭の相場は投機賣買の起りたるが爲に一時騰貴せしと雖も今は低落の方に向ひたり買人は充分の高直を拂ひて買入れたれ共將來に於ける柞蠶絲の景況は尚も上進の相場を維持せしむる迄に發達なす乎如何或は疑しき故は此種の生絲の需要未だ充分發達せざればなりとされば先般來投機の爲に釣上られたる相場は全然失脚したり殊に昨年より持越せし幾荷高五千俵と今年の産額一萬四千俵を加ふれば其在荷高も非常に多きが故に投機の運動は更に其發する機はあり能はざるべし

殊に内地市場に於ても昨年來柞蠶繭の突飛の直段に昇りしも更に之を意となさず取入れたる製絲場就中山東省の小製絲家等こそ獨り蛍れたる壺の代價を拂はせらるゝことなるべし

柞蠶絲に就て殊に茲に記すべきは近年此絲の紐育市場に於て大に其需要を增加し嗜好に投ぜる有樣とれなり即ち紐育にては七繭及八繭引の柞蠶絲常に注文現はれ相場の如きも之を里昂市場のものに比し遙に上直なり

右に云へる如く紐育市場に於ける柞蠶生絲の商業は將來大に有望なり又日本國の如きも此產絲を自國へ輸入初めたれば是より有數の得意家となるに至るべし

尙ほ露國「モスコー」市の絹物織屋の如きも山東省の柞蠶絲に目を注き之を購入せんと其輸入を試み居るなり

滿洲地方の柞蠶小製絲家等は昨年より本年に掛け大に利益を得たるが獨り仲買商は先頃の下落に逢ひて大に失敗したり

左に芝罘より最近四ヶ年間に輸出せし山東省の生絲、柞蠶絲及屑物等の輸出高を示す

年次	白色生絲	黃色生絲	柞蠶絲	屑物
一八九六年	一一五	二、二七六	三、八八二	六、〇一〇
一八九七年	二二二	五四四九	八、九七五	一、〇二七
一八九八年	八〇	七、八五一	一四、一四二	七、二七五
一八九九年	三七〇	一、〇二五九		

尙ほ山東省は「ボンヂー」紬の製產地なり然れ共昨年の柞蠶好直の際には左迄の利益を得ざりし芝罘港の同品輸出高は左の如し

年次	紬	繭（反匹）
一八九六年	三、一八七	二、三五
一八九七年	二、七〇二	二六八
一八九八年	二、六〇〇	一八二
一八九九年	二、四九五	九三

◉雜報

◉幹事の出張

大日本蠶絲會宮城支會に於て十一月廿八日同縣下伊具郡角田町に第二回大集會開會に就き幹事の出張を請求致し來りたるに依り幹事吉池慶正氏を派遣したり

◉宮城支會大集會

宮城支會第二回大集會は前項にも記すが如く客月廿八日同縣中蠶業の中樞を以て目せらるゝ伊具郡角田町の長泉寺に於て開かれたり此日拂曉より蠶業に因める煙火を發揚すり其聲轟々遠近の蠶業者に本會の擧行あるを告知せしめたるを以て例刻に至るや當町第一の巨刹も人を以て埋むるに至れり茲に於て乎同支會幹事長早川智寬氏立て開會の挨拶をなすや當會準備委員長森善太郎氏設備の經過を報告し尋で同支會幹事守屋孝靜氏會務上の要件を報導せり是より更に左記議題の討議に移れり

一自家用蠶種取締を縣知事に建議するの件
二第三回大集會開會地の撰定
三第三回大集會の開會に際し蠶絲業上の品評會を開設するの件
四地方委員の囑托
五評議委員の改撰

其他重要の件に關して熟議を凝らし第三回大集會は志田郡古川町に開き同時に品評會を催すことゝし自家用蠶種の取締は剡下蠶業界の事情必要と認め其方法は評議員の改撰地方委員の囑托と共に舉げて理事者に一任する旨滿場一致を以て議決したり之より講話に移り宮城縣農學校教諭金森安之助、同守屋孝靜、同製絲顧問丹羽敬太郎、亘理蠶業學校長岡本篤義、大日本蠶絲會技藝委員吉池慶正、本縣養蠶顧問練木喜三其他數氏或は實驗上より或は學說上より本業に關し最有益なる演說をなせり本日參會せるもの會員にあらざれば斯業の熱心家なるを以て溢堂の多衆なるにも拘らず滿場肅として謹聽せりと云ふ閉會後當町某樓に於て大懇親會を開けり來會者百數十人發起人總代森善太郎氏の開會の辭來賓吉池慶正氏の挨拶早川智寬氏の謝辭練木喜三梅森三郎諸氏の演說等あり乎非常の盛會なりき尙當日は別室に於て評議員會を開き各種の要件を議定せりと云ふ

◉審査例則

大日本蠶絲會品評會從來の審査例則は主として春蠶種、春蠶繭のみに適用する目的を以て制定せられたるものにして之を以て直に夏秋蠶に律するには不適當なる憾なきにしもあらず而して現今の趨勢夏秋蠶業長足の進步をなしつゝあるも其性質に健否あり品位に精粗ある春蠶の比にあらずと之を以て善を褒し惡を貶するの任務を有する博覽會共進會品評會は之を審判し改善の方法を講ずると能はず第六回品評會の審査に從事せられたる諸氏茲に顧る所あり同會に於ては審査例則の門戶を開放し夏秋蠶を歡迎するの方針を採り例則の改正を決行せり蓋し是れ蠶業界に於ける嚆矢ならん尤も生絲は格別にするの必要を認めずして蠶種は例則を同ふせるも春蠶、夏秋蠶の比較を別途に行へり左に參考の爲に各例則を掲げん

▲蠶種審査例則

審査は肉眼鑑定顯微鏡觀察の二とす

肉眼鑑定

第一　產卵の眞否

卵の產着力粒々能く固着し重疊粗密なく齊一なるものを最上とし之に三十點を附し其最も不良なるものを零點とす

第二　色澤の眞否

其種類固有の色澤を有ち全面齊一なるものを最上とし之に二十點を附し其最も不良なるものを

零點とす

第三　形狀の眞否

其種類固有の大さにして全紙面の卵に大小偏凸なく能く充實せるものを最上とし之に三十點を附し其最も不眞なるものを零點とす

第四　價

以上各項を熟察し左の點を附す

普通製一枚壹圓參拾錢を十點とし上下拾錢毎に二點づゝを加除す

框製百蛾貳圓五拾錢を十點とし上下拾錢毎に二點づゝを加除す

顯微鏡視察

病毒の有無

微粒子毒の有無を檢査し左の點を附す

無毒なるものは五十點とし

病毒あるものは普通製にありては一鏡面毎に十點框製にありては一蛾毎に二點を減じ蛾區の張替をなせるものは一蛾毎に二點を減じ盡くれば零點とす

附則

春蠶種と夏秋蠶種とは類別して之を審査し共に本例規を適用す

▲春蠶繭審査例則

審査は肉眼鑑定及器械檢査の二とす

肉眼鑑定

第一　色澤の眞否

固有の色澤を損せず齊一なるものを最上とし之に三十點を附し其最も不眞なるものに零點を附す

第二　形狀の適否

形狀は其種類固有の狀を具へ大小不同の差なく齊一にして繰絲上適當と認むるものを最上とし之に三十點を附し其不眞なるものに零點を附す

第三　緊緩の眞否

組織に組密の差なく繭層は硬軟其宜しきに適ひ不同なきものを最上とし之に三十點を附し其不眞なるものに零點を附す

第四　絲量の多寡

繰絲上解舒の難易層物の多寡を考案し一升生絲量十匁を有すると認めたるものを零點とし以上五分を增す毎に三點を附す

第五　殺蛹の適否

殺蛹の適否を熟案し繭固有の質を損傷せず蛹體異狀なきものを最上とし之に二十點を附し其異狀甚しきものに零點を附す

第六　貯繭の眞否

貯繭の眞否を熟案し黴菌等の寄生なきものを最上とし之に二十點を附し其甚しきものに零點を

附す

第七　評價

以上の各項を熟考し普通繭の一石時價を考案して五十圓を零點とし以上一圓毎に二點を加ふ

器械檢査

第一　絲尺の長短

繭三個を解舒し其長さを平均し四百回以下を零點とし以上を十回毎に二點を加ふ

第二　纖維の適否

三個の繭に就き纖維の細太を檢し四百回に對して二デニール七分なるものを最上とし之に三十點を附し上下共に一分の差ある毎に二點を減ず盡くれば零點に止む

第三　絲類の多寡

繰絲中最初の二百回を以て類の多寡を檢し大小に區別して無類のものを最上とし之に三十點を附し大類は一個毎に四點小類は一個毎に一點を減ず減じ盡くれば零點に止む

第四　切斷の多寡

繰絲中切斷の多寡を檢し切斷なきものを最上として之に三十點を附し一切斷毎に三點を減ず減じ盡くれば零點に止む

▲夏秋蠶繭審査例則

審査は肉眼鑑定及器械檢査の二とす

肉眼鑑定

第一　色澤の眞否

固有の色澤を損せず齊一なるものを最上とし之に三十點を附し其最も不眞なるものに零點を附す

第二　形狀の適否

形狀は其種類固有の狀を具へ大小不同の差なく齊一にして繰絲上適當と認むるものを最上とし之に三十點を附し其不眞なるものに零點を附す

第三　緊緩の眞否

組織に組密の差なく繭層硬軟其宜しきに適ひ不同なきものを最上とし之に三十點を附し其不眞なるものに零點を附す

第四　絲量の多寡

繰絲上解舒の難易層物の多寡を考案し一升生絲量八匁を有すると認めたるものを零點とし以上五分を增す毎に三點を附す

第五　殺蛹の適否

殺蛹の適否を熟案し繭固有の質を損傷せず蛹體異狀なきものを最上とし之に二十點を附し其異狀甚しきものに零點を附す

第六　貯繭の眞否

貯繭の眞否を熟案し黴菌等の寄生なきものを最上とし之に二十點を附し其甚しきものに零點を

附す

第七　評　價

以上の各項を熟考し普通繭の一石時價を考案して四十圓を零點とし以上一圓毎に二點を加ふ

器械檢査

第一　絲尺の長短

繭三個を解舒し其長さを平均し三百五十回以下を零點とし以上十回毎に二點を加ふ

第二　繊維の適否

三個の繭に就き繊維の細太を檢し四百回に對して二デニール五分なるものを最上とし之に三十點を附し上下共に一分の差ある毎に二點を減ず盡くれば零點に止む

第三　絲類の多寡

繰絲中最初の二百回を以て類の多寡を檢し大小に區別して無類のものを最上とし之に三十點を附し大類は一個毎に四點小類は一類毎に一點を減ず減と盡くれば零點に止む

第四　切斷の多寡

繰絲中切斷の多寡を檢し切斷なきものを最上として之に三十點を附し一切斷毎に三點を減ず減と盡くれば零點に止む

▲生絲審査內規

審査は別て肉眼査定及器械檢査の二とす今左に各目に就き之か附點表を示さん

肉眼査定

第一　色澤の良否

固有の色澤を損せず表裏の差なく純齊なるものを最上とし之に五十點を附し其最も劣等なるものに零點を附す

第二　束裝の適否

束絲、綜留、力絲、總の大小、及錢角固着の適否を査定し毫も絲の紊亂損傷等の虞なく完備せるものを最上とし之に三十點を附し其最も不完備なるものに零點を附す

第三　絡交の適否

綜耳の厚薄絡交の齊否等を査定し周密整備せるものを最上とし之に五十點を附し其最も不整備なるものに零點を附す

第四　評　價

其品位を査定し內外需要の適否如何を熟考し當時の市價百斤を八百五十圓とし之れに相當するものに零點を附し一圓を優る毎に一點を附す

器械檢査

第一　再　繰

籤の回轉數一分時間細絲は（十二まで）五十回太絲（十二以上）は六十回の速力を以て一時間繰返し此間絲條の切斷なきものを最上とし之に四十點を付し一切斷毎に五點を減じ減じ盡くれば零點を附す

第二　繊　度

各繭毎に表より三回裏より二回づゝ絲長四百七十六メートル（即檢尺器四百回）を採り之を秤量して繊度の細太を檢し平均繊度に對する不齊の度其三分一以上あるものを零點とし以內百分一を減ずる毎に三點を附す

第三　類　節

各繭の表裏共に二回づゝ絲長二百五十メートルに有する類を大小に區別して檢査し之を平均し其無類なるものに四十點を附し以上類數の增加に應じて大類は一個毎に五點小類は十個毎に三點を減じ減じ盡くれば零點を附す

第四　強　力

各繭毎に無疵の絲繰十本を採りて檢査し之を平均し繊度十デニールに強力三十五グラムを有するものを定則として比較し之より以下なるものを零點とし以上一グラムを增す毎に三點を附す

第五　伸　度

強力と同時に伸度を檢査して之を平均し絲長半メートルの延伸百〇五ミリメートル以內なるものを零點とし以上一ミリメートルを增す毎に二點を附す

●自家用蠶種及框製蛾區に就て

明年四月一日より實施せらるべき改正蠶種檢査法の規定に付ては特に當業者の注意を要するものあり即ち同法第十三條には自家用の爲め蠶種を製造する者には本法を適用せずとあり又第十五條には自家用の爲製造したる蠶種は之を讓渡することを得ずとありて第十六條には前條に違背したるものは五十圓以下の罰金に處すとあり而して同法施行規則第二十一條には自家用蠶種製造者なる意義に付て左の如き規定あり

蠶種檢査法に於て自家用の爲め蠶種を製造する者とは自ら掃立てたる蠶種より產出したる繭を以て自家飼育にのみ供用する蠶種を製造する者を云ふ

此の規定に依りて見るときは自家用蠶種製造者として檢査法の檢査を適用せられざる區域は甚だ狹少なりとすべきなり即ち他人の掃立てたる蠶兒又は之より產出したる繭を讓受けて蠶種を製造する場合は自家用の行爲とならざるを以て檢査法を適用せらるべく又自家用として製造したる蠶種は自家飼育にのみ使用すべきものたるを以て之を讓渡するを得ざるは勿論其蠶種より產出したる蠶兒も讓渡することを得ざるなり

又同法施行規則第四條第二項には左の如き規定あり

原種製造に供用すする臺紙は之を二十八區に分つことを要す

此規定に付ては從來原種臺紙の蛾區不定なるが爲め檢査施行の手續上頗累を感ずること尠からずして明年度よりは不越年蠶種の檢査も實施せらるゝことなれば一層其手續の敏活を期するの必要あり又蛾區の數多きに過ぐるときは卵粒の產附密接に過ぐるの弊を生じ易き等の傾向あるを以て結局各府縣を通じ從來の慣行を酌酌し規定せられたるものゝ由尤も施行規則第三十二條但書には本則施行の日より一年間は右の規定に依らざることを得とありて一年間其適用を延期せられおれば當業者も右の期限内に相當の準備をなし得らるゝ餘地あるべし

●米國大統領の當選

米國大統領の寶冠は愈前任者マッキンレー氏の手に落ちたりマッキンレー氏は千八百四十三年の生にして本年方に五十八歲、オハイオのカントン市に於て法律業樂とし千八百七十一年以來同州より選ばれて下院に議員たり千八百九十一年よりはオハイオ州の知事たりしが保護貿易を以て主義とし遂にマッキンレー關稅則と稱する關稅法案の制定に依り其名を成し千八百九十六年プライアン氏の百七十六票に對し二百七十一票の多數を制して大統領に選擧され今日に及べるものなり然るに今回再選されて更に四年の任期の重ぬるに至る氏が前回の選擧には金、銀貨幣の主義に依りて双方の黨派に各分合ありしが今回は帝國、非帝國を主義として又双方の間に分合あり其競爭の激烈にして人氣の沸騰したると近年に其例を見ざる所なりしと云ふ而して競爭者ブライアン氏百四十二票に對する三百五票にて當選の桑を擔へりマッキンレー氏が前任期中に於ける主要の出來事は即ち氏が主義とする保護關稅の實施と次で西班牙との戰爭にして前者の爲めには國力頗る增大し前大統領クリーヴランド氏の任期中には四年間の總輸出品價額卅四億三千萬弗なりしに氏が任期に入りては三年間にして既に三十五億弗を稱するに至り四年前の郵便收入八千二百萬弗に增し國民一人に對するものは昨年に於て九千五百萬弗に增し國民一人に對する通貨の額も亦二十一弗十仙より二十六弗八十五仙に增加し貯蓄銀行の貯金額は氏の任期に於て四億弗を增加したり此等の事實は蓋し氏をして其再選の桑を擔はしめたる重なる原因ならん氏の再選は即ち米國の繁榮にして我邦の對米貿易は尙ほ順境を持續するを期べく蠶絲の前途必ず好望なるべし尙ほ後年即ち西班牙との戰爭に依りては米國は氏の任期中にキューバ、フヰリッピンの兩領土を加ふるに至れり尙ほ別にサモアの一部も氏の任期中に於て米國の領土に歸せり氏は必ず其來るべき四年間に於て内にありて生絲檢査所長岡殺氏農商務技師紫藤章氏蠶業講習所技師本多岩次郎芝山直清の兩氏其外數名列席したり先づ幹事長松尾寛三氏は起て開會の挨拶をなし前田監督に代はりて簡短に式辭を演說し夫より八田逸也氏出席者一同を代表して答辭を朗讀す玆に於て幹事長は議長の指名を以て選ばれて練木喜三氏の名を呼るや一同贊成因て練木氏議長席に著し幹事長は更に第七回大會以來の形勢を報じて曰く第七回の議題は種々なるも其要は蠶絲業調査所を設置する事及蠶絲業組合を重要物產組合法に因らずして特別に設置する件なり本件に就ては滯京委員數名を選擧し農商務省其他の當路者と交渉をかさねたり蠶絲業調査所の如きは其筋にても贊同の意を表したれども果して第十五議會に政府案として提出さるるや否や判然せずと述べたり次に議長は書記をして事務及會計の報告をなさしめ次に各實業區大會の報告は各區代表者より演說し夫より會計決算調査委員選擧終りて休憩せり午後一時過會議案提出の報告委員の選擧等あり尋で本多芝山兩技師の演說ありしと云ふ

第二日は午前九時開會來賓は蠶業講習所技師芝山直清、農商務技手吉池慶正、衆議院議員降旗元太郎、農學士大森順造等の諸氏にして降旗、大森兩氏の演說あり午後一時代表者一同議席に著き委員長八田逸

富力を增さしむると共に外にありては即ち此等新領土の領有を確固にすることを力むるならん米國の對清政策に新面目を見んと豫期さるゝは即ち之が爲なり

●人造生絲の盛行

人造生絲は蓋々改良を加へて昨年頃より大に流行の勢を成し今や佛伊より米國に迄波及し純粹なる生絲若しくは其製品の如く精巧にして耐强の美點は未だ之を謂もるに至らざれども彼の襟飾、小間物、繻貨等に用ひて却て生絲製品を壓するの有樣なるが我が國の生絲及び其の製品等は其だ粗雜にして改良の點更らに無く却て人造生絲の製品に劣らんとするの有樣なきにあらざれば今日の如く生絲貿易の不振を致す折柄當業者の大に改良を計るにあらざれば漸次人造生絲の爲めに重要商品を壓倒せらるゝことなきを保せざるなり

●新設の蠶絲業組合

去十一月農商務省に於て蠶絲業に關する同業組合の設立を認可せられたるもの左の如し

福島縣南會津郡蠶絲同業組合位置南會津郡田島町
山形縣山形市蠶絲同業組合　同　山形市下條町

●第八回全國蠶絲業大會

第八回全國蠶絲業大會は客月十六、十七の兩日赤坂溜池なる大日本農會々堂に於て開かれたり第一日出席者は各府縣代表者總計百三十名にして豫想外に盛況なり當日は來賓として生絲檢査所長岡殺氏農商務技師紫藤章氏蠶業講習所技師本多岩次郎芝山直清の兩氏其外數名列席したり先づ幹事長松尾寛三氏は起て開會の挨拶をなし前田監督に代はりて簡短に式辭を演說し夫より八田逸也氏出席者一同を代表して答辭を朗讀す玆に於て幹事長は議長の指名を以て選ばれて練木喜三氏の名を呼るや一同贊成因て練木氏議長席に著し幹事長は更に第七回大會以來の形勢を報じて曰く第七回の議題は種々なるも其要は蠶絲業調査所を設置する事及蠶絲業組合を重要物產組合法に因らずして特別に設置する件なり本件に就ては滯京委員數名を選擧し農商務省其他の當路者と交渉をかさねたり蠶絲業調査所の如きは其筋にても贊同の意を表したれども果して第十五議會に政府案として提出さるるや否や判然せずと述べたり次に議長は書記をして事務及會計の報告をなさしめ次に各實業區大會の報告は各區代表者より演說し夫より會計決算調査委員選擧終りて休憩せり午後一時過會議案提出の報告委員の選擧等あり尋で本多芝山兩技師の演說ありしと云ふ

第二日は午前九時開會來賓は蠶業講習所技師芝山直清、農商務技手吉池慶正、衆議院議員降旗元太郎、農學士大森順造等の諸氏にして降旗、大森兩氏の演說あり午後一時代表者一同議席に著き委員長八田逸

也氏の委員會經過報告あり委員會は提出議案四十六件ありしも此際蠶絲業界の上に於て最も急務中の急務なるものの丈け扱率したり之を述べ大會は調査委員の報告を是認し逐條審議を經るを要せずして滿場異議なく可決したり其決議の十二項左の如し

一自家用蠶種取締法の發布ゑ主務大臣へ建議の件

二鐵道規則により蠶種を携帶し乘車を禁ぜらるゝは當業者の不便なるを以て此規則の改正を其筋へ建議の件

三博覽會共進會蠶種繭生絲審査法改正を主務省へ建議の件

四原料蚕紙の區劃は地方廳の便宜に任ぜられんとを其筋へ建議の件

五蠶絲業調査所設置の速成を其筋へ請願すると

六蠶糞編除懸防取締法を各府縣へ建議の件

七第五回勸業博覽會出品中蠶種繭生絲に對し特に陳列館を設けられんと及び萬國繭絲を購入し參考として陳列せられんとを其筋に請願すると

八生絲運搬を普通貨物と同ト く速速便に更正あらんとを其筋へ建議の件

九蠶絲業組合法發布の議貴衆兩院へ請願の件

但差向き同業組合規則により組合の速成を期せしむべき機其筋より調令を發せられんことを建議すべし

十繭絲の機關銀行設立の調査は本部に依托すると

十一東京都府議事所に特に製絲專門技術者を養成せられんとを其筋へ建議すると

十二生絲定期取引所の現品市場に對する影響利害調査の件は本部に於て十分調査研究し果して害ある限りは直に其適正法を其筋へ建議交渉し速に其目的を達するとな力むるも

▲明年新絲の季節に際し横濱に於て全國生絲品評會を開設すると

▲該品評會規則其他一切設備に關する事は本部に於て設定すると

▲該會は開設に付きて横濱生絲關係の團體と交渉し大に助力を求むるとと▲該會の費用は有志の寄附を審査用に供したる生絲の寄附を以て之に充つると▲賞與品は其筋より下附せられんとを懇請すると▲出品生絲は横濱の出荷の内より撰擇するものとし各自に於て出品用生絲をして特に製造せしむる等のことなきを要す

を本議に附するの可否を問ひしに撤回說盛んにして終に磨案となりたり而して前議の決議事項を實行するに當りて一府縣より一名以上の運動委員を設けんとの動議ありたるも反對說出で結局本會出席代表者中或は各一區一名の議長指名實行委員を選ぶべしと動議贊成多數なりしを以て之に決し直に協議を開きたる末決定せし諸氏は二條道政角田喜右作(關東)依田佐治平(東海)小笠原長道(四國)上田義高(九州)梅森三郎(陸羽)永島善政(中國)梅本周吉(京攝)

此に於て會議全く終了を告げ祝辭等ありて後に天皇皇后兩陛下萬歲蠶絲業大會萬歲を三唱し無事閉會を告げたるは同三時過ぎなりし一同夫より紅葉館に懇親會を開きたりと云ふ(本會報第百號參照)

●蠶蛆驅除の効果

蠶蛆は年一年に蔓延し被害の區域を擴張し蠶業界を蹂躪しつゝあるが殊に本年は各地共一層其害多かりしに似たり然るに長野縣下伊那郡秦阜村に於ては銳意驅除に盡瘁したるを以て既往に於ては蛆害にて殆んど蠶種の製造を斷念せざるべからざる悲境に陷りしものが本年は著しく効驗現はれ發蛾步合九步以上に達したれば蠶業者の喜悅斜ならず更に一層進で撲滅の方法を講ぜん計畫をなせりと

埼玉縣兒玉郡見玉町養進社にては故社長本村九藏氏の紀念碑を建設し之と同時に第四回繭蠶種共進會を行ひ十一月二十五日を以て其褒賞授與式を擧行せり本日林農商務大臣臨席せらるゝ筈なりしが生憎疾病に侵されたるを以て代理として紫藤技師、大日本書記官、群馬縣知事代理加賀山技師其他兒玉、秩父等の各郡長衆議院議員、縣會議員、警察署長、町村長、學校長其他社員等無慮七百餘名會場は人を以て山を築けり式は午前十一時より始まり審査長足立埼玉縣技師審査の成蹟を報告し橫山埼玉縣知事代理より一等より五等まで二百有餘名の優等者に賞品及び賞狀を授與せられ尋で同社功勞者に對し浦部同社長より功勞賞として銀盃を下賜せり是より紫藤技師農商務大臣の告辭を代讀せられ埼玉縣知事、群馬縣知事兩代理の祝辭吉池大日本蠶絲會幹事の祝詞其他數通あり有式終るや午餐の饗應あり其間始終樂隊は音樂を奏し其聲嘹喨たり又有志の寄附になれる煙火數千本は盛々轟々天地を震動せり當町附近は各戶國旗を揭げ祝意を表し遠近の老若男女蝟集し非常の盛況を極めたりと云ふ

●生絲不況の一原因

數年米國にありし橫濱同伸會社員林鶴太氏近頃歸朝し本年米國に於ける生絲の狀況を語れり其不況の原因として數つんなるものの又聞くべきものあり參考の爲め左に掲載せん

御承知の通り一昨年及一昨年の兩年度は歐洲及東洋共に產額が少なかつたが昨年度は頗る增加を示したで本年の產額も亦歐洲東洋共に減少して昨年同樣の額を示すであろうと豫想した殊に我日本の經濟界不況の聲は隨分彼地に聞へて上政府の財政困難及び下民間の金融必迫は或は本國に於ける實狀よりも寧大きく彼地に聞へたる傾があつて當業者は又我製絲家の投資を待設けたのも本年の不況を來した原因で流行の變遷に續ひでの勢力ありしものゝ如く見ゆる本年不況の最大原因は毛織物の流行絹物の衰頽にあることで甚だ心細い樣であるが併し彼地に於ける流行の變遷は如何にも不思議のもので何時如何なる邊より再び絹物の流行とならないことでもない本年毛織物が流行したとて決して大に失望するに足らない帽子及び袴の飾でも衣服の縞柄でもあれが宜しいふことになれば猶も杓子もそれをヅン〳〵新調するとゝふ有樣で明春の春衣からは又絹物の需要が俄に

増加するかも知れない且本年の絹を捨てゝ毛を用ゆるに至つた原因としては昨年中絹物の價格が餘り騰貴したのに毛は非常に下落したと云ふ事情の爲めに一層此變遷を促した傾向も慥にあるが昨今の絲價は御覽の通り低落したから今後は流行の毛織物を排斥することがないでもなかろうと思はるゝそれに如何に絹物の需要が減じたからとて全く消費しないといふではなし一時滯積した絹織物も最早大抵捌けて在荷大に減少し生絲の在荷も亦買付を扣へたる結果昨今寧制合に少なき方なるに期節は恰も明年の春物織立に從事せねばならぬ時となつて來たから絲價の騰貴は容易に望まれないが併し賣行だけはソロ〳〵始まるだろうと思ふ云々

●褒賞下賜

公衆の利益を興せし廉を以て埼玉縣大畠喜三治氏は十月二十六日滋賀縣富田忠利氏は十一月八日附を以て賞勵局に於て藍授褒賞を下賜せられたり　大畠喜三治

埼玉縣武藏國見玉郡丹庄村

資性篤實夙に志を農蠶に鵬まし率先指導林地を開て桑苗を撰栽し躬ら育法を研究し蠶種を精製して衆に頒ち教師を聘し子女を集めて坐繰製絲の練習を奬勵し有志と謀りて共進社を起し推されて社長となり廣く生徒を各府縣に募り私費を捐て之を養成し業を卒へたる者八百餘名の多きに至る又美作讃岐の農産協會に養蠶傳習所を開き且つ各種の會社組合を組織し屢々顧踏するも屑撓せず斯業の改善普及を圖り其他修路恤窮等に力を竭し前後費す所巨大なるも公衆の利益を興し成績著明なりとす仍て明治十四年十二月七日勅定の藍授褒章を賜ひ其善行を表彰す

滋賀縣近江國伊香郡木之本村　富田忠利

資性温厚夙に心を公益に傾け力を殖産に致す明治四年彦根藩知事の命を受て教育場を設け各村を勸誘して子弟の就學を勵まし五年學制の頒布あるや闔郡に率先して小學校を開き尋で校舍を新築し既にして高等科を設て以て教育の發達を圖り又有志と共に一社を團結して忠雛相救ふの法を立て以て風俗を敦ふし融通會社を創め後組織を更めて湖北銀行と稱し資本運轉の途を啓き製絲會社を起し牙儈の壟斷を抑へて養蠶家に裨益を與へ曾て村政に從ふや村界を正し宿弊を革めて統一の舊に復し所屬の貧郷に金を貸し地を購ふて以て獨立の部落たらしめ其他道路を開きて交通を便にし金穀を損て窮民を賑はす等洵に公衆の利益を興し成績著明なりとす仍て明治十四年十二月七日勅定の藍授褒章を賜ひ其善行を表彰す

●人事彙報

▲横井時敬氏　大日本蠶絲會技藝委員にして農科大學教授なる横井農學博士は歐洲に留學中なりしが過

▲今西直次郎氏　大日本蠶絲會技藝委員にして横濱生絲檢査所技師なる同氏は佛國に於ける萬國博覽會に出張中なりしが此程無恙歸朝せられたり

●特別廣告

●會員諸件

本年十一月中本會に入會せられたるもの左の如し

○通常會員

東京　三田啓次郎
同　常吉
同　西野常吉
同　荻野德次郎
同　鈴木利助
同　岩田弘
同　神藏貞次郎
同　岩澤和十郎
同　夏梅喜太郎
同　神藏岡右衛門
同　草薙鶴吉
同　神藏加右衛門
同　村野常右衛門
同　中溝五郎
同　市川道助
同　山崎新太郎
同　田中三之助
同　須崎緝作
同　河井充之助
同　東京　宿谷松藏
同　武藤爲一郎
同　日本農事株式會社
京都町田弘
同　岩田保
同　駒藏
同　鹽見
同　岸田良藏
同　梅垣虎雄
同　大島光太郎
同　上野榮吉
同　西野萬治郎
同　齋藤友吉
同　上井隆
兵庫　井
神奈川　新太郎
新潟　山崎八
同　廣木岩
同　平野知周
同　須永米治
埼玉　松浦和十郎
同　吉原範平
同　大澤茂吉
埼玉製絲株式會社　涙江稔三
同　新井榮藏
同　關松
群馬　櫻井孝三
同　平銀太郎
同　松崎己之作
同　茂木吉三郎
同　川島涙三郎
同　千明里次郎
同　小林啓太郎
千葉　芝崎廣次郎
茨城　篠崎竹三郎
同　岩岡喜與志
栃木　大島角之助
同　松本定次
同　落合小三郎
同　渡邊勇吉
愛知　鶴田伊錄
同　夏目學
同　村松德太郎
同　村松
同　森下鏗次郎
同　山脇又七
同　神谷德五郎
同　松田文祥
滋賀　藤田拾治郎
同　深井孝三
同　北川廣吉
同　川瀨吉次
同　內貴寅吉
同　肥田嘉太
同　塚田兼治郎
同　川島市太郎
岐阜　谷口正吉
同　白木政次郎
長野　鄉在國太郎
同　倉島所右衛門
同　酒井庭助
同　信濃蠶種合資會社
同　牧田德十
同　須山久逸
同　川口惣左衛門
同　小川春次郎
同　大森惣太郎
佐藤郡三

長野　今井善五郎
宮城　吉野製絲株式會社
同　馬場由
同　井上甲子二郎
同　笹森良吉
同　熊谷末吉
同　中野泰藏
同　齋藤作次郎
同　伊藤竹治
同　山田泰助
同　森俊治
同　保志長吉
同　松浦彦右衛門
同　山中榮三郎
同　佐藤昇
福島　齋藤榮吉
同　中村新右衛門
同　石幡吉三郎
同　大橋吉三郎
同　佐藤惣一郎
同　遠藤長吉
同　三瓶長藏
同　福島菊田友藏
同　高田忠藏
同　遠藤卯兵衛
同　桑折藤太郎
山形　渡部伊惣次
同　寒河江嘉七
同　鈴木佐重
同　秋田淺利基一
石川　北川八右衛門
富山　坂東義一
同　玉木友市
同　伊藤備眞
同　稻田禾穗
同　安達幸太郎
同　植田稔
同　入江孫四郎
山口　道田良一
和歌山　木村隆夫
北海道　岡本榮二郎
同　藤丸七郎
計　百二十三名

有の内に不明三田、四野（常吉）の二氏は大野修兵衛氏。篠野氏及以下十三氏は興藏寺吉氏。宮谷氏は大藤右郎左衛門氏。武藤氏は若田庄右衛門氏孰も紹介せられ日本農事株式會社、町田、井上屋、大澤、埼玉製絲株式會社、須江、松平、小林、芝崎、篠崎、藤田以下八名、白木、酒井、小川、（吉野製絲株式會社）、佐藤（舞）、宮藤（榮右）、渡部、荒河江、鈴木（佐重）、淺利、北川、坂東、植田、岡本の三十三氏は各自に申込まれ若氏及以下六氏は渋多野鶴吉氏。齋藤（友吉）氏は齋藤省三氏。山崎、藤木、馬場の三氏は二宮龜松氏。平野氏は山田政嗣氏。須永氏及以下二氏は杉浦清助氏。新井氏は淵島彦七氏。櫻井氏は森武十郎氏。秋山氏は佐藤榮太郎氏。岩岡氏は町田元吉氏。大島（角之助）氏及以下三氏は村清吉氏。夏目氏及以下三氏は村松雲氏。桑下氏及以下二氏は村清子德之助氏。樋口氏は平野俊太郎氏。谷口氏は中野俊太郎氏。漏谷氏は田中良太郎氏。倉島氏は久保田外治氏。信濃蠶種種合資會社は務一亮一氏。牧田氏は熊田園太郎氏。須田氏は信濃ト伊那支會。川口氏は養田恒三郎氏。大森氏は久保田字右衛門氏。佐藤（郡三）氏は藤木善右衛門氏。今井氏は山崎脳氏。井上（甲子二郎）氏及以下十氏は宮城支會。中村氏及以下九氏は福島縣伊達郡支會。玉木氏及以下三氏は島根支會。入江、道田の二氏は鳥取縣支氏。木村氏は谷口吉郎氏。藤丸氏は山川保雄氏孰も紹介せられたり

又同月中死亡せられたるもの左の如し

○通常會員

群馬　木村安平

●正誤　本報第百一號第六回品評會受賞人名中、三十五頁下段一行吉田太力の上宮城縣伊具郡舘矢間村は北海道札幌郡二手稻村、同二十六行東伯蠶種同業組合は東伯蠶絲同業組合の孰れも誤り

信濃綿●青熟●小石丸●又昔●全面厚附卵八反
春蠶種實費分與
信州下高井郡延徳村
壹校（壹圓）框製原種百蛾（貳圓）●陸續申込アレ
青木蠶業場

蠶種ハ檢査濟優等品

歸朝　埼玉縣秩父郡樋口村　會員　野口由三郎

養蠶研究生募集廣告

種繭育　絲繭育

セシムル種繭育共實習ヲ明ニシ兩育ハ温暖育ニ近シ○絲繭育ハ天然育ニ近シ○現則入用ハ左ノ蠶種ヲ販賣ス種類○全三錢○本所ハ白中蛋○青熟大巣及中蛋○全面原種用框製造檢査濟百蛾貳圓又昔大巣及中蛋○新原種四拾錢○爲替受取ハ割引セリ○多數ハ割引ス

埼玉縣大里郡八基村字町田　福地仙太養蠶所

上毛蠶種の家　上毛蠶館○千本良芳郎

春蠶種八重姫・小石丸

販賣仕候御一報次第定價奉呈

石川縣河北郡金津村

實力館

上野國新田郡新町

農科大學教授理學博士佐々木忠次郎先生校閲
蠶業講習所技師農學士河原次郎先生著述

第三版　蠶體病理

實價金卅五錢
郵稅四錢

附蠶種檢査法註解

養蠶家ニシテ或果タタル美麗ナル蠶種ヲ收メ且無毒强壯造セントスル可カラザル條件ナリ之レ今日當局者カ消毒ノ適切ナル施サザル可カラザル所以ニシテ實業家ハ勿論ノ事ナリ一般ノ人士モ亦其必要ヲ認ムルニ至レリ本書ハ如上ノ趣旨ニ基キ蠶病ノ原因ヲ明カニシ其防禦ノ方法ヲ詳述シ以テ蠶種檢査ノ用ニ供シ且ツ

英國蠶絲鑑定師橋本重兵衛編

内外生絲昂低一覽表

實價金參圓五拾錢

四回刷製本折本携帶便益之レヲ伸張スレバ附羽二重昂低表

本書ハ蠶ニ於ケル生産出高並ニ蠶業ノ盛衰ニ關スル諸般ノ事項ヲ簡明ニ記載スル長ク下ニ集中スル農商ノ山林ノ世界各國ノ結果ヲ調査シ等ニ多ク刻苦シ精勵ト欲ス上ノ來ル十年間ノ産出ハ額及ビ輸出總額ハ百萬斤ニシテ平均ノ價格ハ米國及ビ太邦ノ産出額ハ高ノ低ノ伊利提鐵國ノ收藏額及ビ世各國ニ於ケル米國ノ高低ノ佛國ノ高ク佛國ノ高ク佛國ノ米國ノ

本書ハ蠶ニ於ケル生産出高並ニ蠶業ノ盛衰ニ關スル諸般ノ事項ヲ簡明ニ記載スル長ク下ニ集中スル農商ノ山林ノ世界各國ノ結果ヲ調査シ等ニ多ク刻苦シ精勵ト欲ス上ノ來ル十年間ノ産出ハ額及ビ輸出總額ハ百萬斤ニシテ平均ノ價格ハ米國及ビ太邦ノ産出額ハ高ノ低ノ伊利提鐵國ノ收藏額及ビ世各國ニ於ケル米國ノ高低ノ佛國ノ高ク佛國ノ米國ノ

本書ハ蠶ニ於ケル生産出高並ニ蠶業ノ盛衰ニ關スル諸般ノ事項ヲ簡明ニ記載スル長ク下ニ集中スル農商ノ山林ノ世界各國ノ結果ヲ調査シ等ニ多ク刻苦シ精勵ト欲ス上ノ來ル十年間ノ産出ハ額及ビ輸出總額ハ百萬斤ニシテ平均ノ價格ハ米國及ビ太邦ノ産出額ハ高ノ低ノ伊利提鐵國ノ收藏額及ビ世各國ニ於ケル米國ノ高低ノ佛國ノ高ク佛國ノ米國ノ

番絹輪入稅相場ノ最高最低ハ明治元年ヨリ同三十年ノ間ノ平均ハ三十年ノ間ノ平均ハ三十年ノ間ノ平均ハ

謹告　養蠶家之必讀ヲ望ム

完全無缺自動噴霧器

フオルムアルデヒート液
堅牢
保險

本器ハ蠶病ノ大驅除ニ最タ今ヤ諸家ハ盛ンニ賞ス

ノ噴霧タルフオルムアルデヒート液ハ正價金壹圓五拾錢箱入

ノ如ク品質ノ優良ナル本器ハ特ニ各部ノ接合ヲ堅牢ニ保ツ故ニ空氣ノ壓力ニ依リ銅板ノ破裂スルノ恐レナシ

●本器ハ特ニ各部ノ接合ヲ堅牢ニ保ツ故ニ空氣ノ壓力ニ依リ銅板ノ破裂スルノ恐レナシ

●本器ハ全ク極メテ厚キ「ニッケルメッキ」ヲ施シタル銅製ノ有ルヲ以テ在來品ニ比シ其弱ナル板金（カラクリ）製ニアラズ

●本器ハ在來品ニ比シ其弱ナル板金（ハンダ）附ノ如ク止金ハ厚地金ニ鑄出シ金屬ノ如ク堅牢ニ作リ其製造ハ極メテ簡單ニ至レリ

●本器ハ在來品ニ比シ其弱ナル板金（ハンダ）附ノ如ク止金ハ厚地金ニ鑄出シ金屬ノ如ク堅牢ニ作リ其製造ハ極メテ簡單ニ至レリ

●本器ハ在來品ニ比シ其弱ナル板金（ハンダ）附ノ如ク止金ハ厚地金ニ鑄出シ金屬ノ如ク堅牢ニ作リ其製造ハ極メテ簡單ニ至レリ

他製品ニ比シ其卓越スル點ハ文部省ノ認可ヲ受ケ全國ノ蠶業家ニ對シ保險完全ニ付キ其缺點ヲ除去シ自動ノ噴霧器ニ刻苦ノ研究ヲ重ネ遂ニ極メテ簡便ニ使用シ得ル構造ニ製作シ其價格ハ廉ニシテ高價ナル器ニ比シ遜色ナキ實用ニ堪ヘ粗造ノ弊ヲ一掃シ品質ハ優良ニシテ販賣ヲ欲スル人士ハ時ヲ失ハズ或賣ヲ以テ一時ノ奇利ヲ貪ル外ナシ

フオルムアルデヒート液

簡便安全消毒燈

正價箱入一具　金拾壹圓

「フオルムアルデヒード」原液及ビ「メチールアルコール」ハ時々一定ノ價廣告仕兼候ニ付時ノ大相場ニ基キ溝利ヲ以テ御注文ニ應ヲ可申候

百里内外　百里以内　百里以外　小包料　有效期間　金壹圓　正價箱入一具

東京市下谷區御徒町一丁目六十九番地

醫療器械製造所

合資會社　職工聯合工進社

蠶室用暖爐

●蠶室消毒蠶烟暖爐價壹圓八十錢（小包送拾里迄拾五錢百里迄廿八錢百里外五十六錢）

●蠶室用改良暖爐價一圓五十錢（小包送拾里迄廿錢百里外四十錢）

蠶室消毒蠶烟暖爐

特許

中願

蠶室消毒煙暖爐

大日本蠶絲會

蠶室改良暖爐の有効を確認し會報第八十一號に於て其効益あるとを天下に紹介せられたり其文に曰はく

東京市日本橋區蠶業町丸山舍より販賣せる蠶室用改良暖爐は蠶業者の定評ある點なり

暖爐の構造は其要點を稱して曰はく

「蠶室用暖爐は其要點を稱して曰はく

「蠶室用暖爐は其要點を稱して曰はく

「蠶室用暖爐

獨逸ハーベルランド先生原著
日本小幡篤信先生纂譯

第四版

ハーベルランド氏 養蠶論

全一冊（背皮クロース製）
郵賣價金八十五錢
郵稅金八錢

目次●蠶ノ鑑定●蠶ノ貯藏●蠶ノ越冬●蠶ノ發生●蠶ノ孵化●蠶ノ生理●蠶ノ形態●蠶ノ組織●蠶ノ分泌●蠶ノ諸器●蠶ノ皮膚●蠶ノ脂肪組織●蠶ノ神經●蠶ノ裝置●蠶ノ脂肪●蠶ノ營養●蠶ノ嗜好●蠶ノ運動●蠶ノ循環●蠶ノ呼吸●蠶ノ血躰●蠶ノ脆弱●蠶ノ變形●蠶ノ繭●蠶ノ組織●蠶ノ諸器●蠶ノ皮膚●蠶ノ脂肪●蠶ノ營養●蠶ノ嗜好●蠶ノ淨化●蠶ノ適應●蠶ノ時期●蠶ノ限●蠶ノ室●蠶ノ溫度●蠶ノ規則●蠶ノ飼養法●蠶ノ室內溫度●蠶ノ位置●蠶ノ氣溫●蠶ノ適當●蠶ノ持續●蠶ノ蠶室●蠶ノ蠶繭●蠶ノ絲●蠶ノ蛹●蠶ノ陰具●蠶ノ並●蠶ノ性質●蠶ノ

蠶業新報

（毎月一回定時刊行）　第九拾壹號　（明治三十年一月廿日發行）

●口繪東京蠶業講習所技師良學士辻帯太郎君の肖像

●稅見　勞費の節減　新智識の應用と　佐々木博士の論文を讀む

●時論　「清冷育を望む」と題する研究

●蠶界　佐々木博士の「蠶病の反對論」に就て

●蠶業　「蠶病の反對論」又は「讀て其他松本氏の「蠶業一班」等

●技師の方針　「蠶絲業の將來」「蠶絲業高橋氏の將來」

●經驗　「蠶業小の經驗」「蠶絲業の伸度」

●前號の續　「生絲練糸の方法」「蠶絲業の將來」

●關係　「蠶業と伸度」「蠶業と氏」

●及氏　「蠶業と氏」「蠶業と氏」

●產化　「蠶業と氏」「蠶業と氏」

●中晩　「蠶業と氏」「蠶業と氏」

●蠶　「蠶業と氏」「蠶業と氏」

●蠶　「蠶業と氏」「蠶業と氏」

●蠶

蠶體生理

東京蠶業講習所長農學博士野澤淳先生序
京都蠶業講習所長　松永伍作先生序

蠶業講習所技師　農學士　石渡繁胤先生校閲
池田桑太郎先生著

●目次の詳細は本誌前號に在り今其大綱を掲ぐれば全篇殆んど十章(六十一節六十一項)より成り第一章(六節十項)第六章(十五節廿四項)第四章(六節二項)第七章(七節三項)第八章(五節五項)第九章(三節十項)第十章(第二章十一節第三章附論)に細別せられたり

著者は多年蠶業講習所に在りて熱心蠶學を研究し剛下蠶體生理を解剖の學に於て風に喫々の間ある蠶業講習所技師農學士石渡繁胤先生に就き其蠶學を究めたるの人稍近「我邦蠶學は實に見るべきものありと雖とも斯學上最も重大の關係ある蠶體の生理に關する研究の不足なるを憾とす」と公務の餘暇を以て自ら筆を之に把り珠に石渡先生の懇切なる校閲を經て茲に之を公刊するに至る嚮に本書の効用に至ては其題名の下に列記したる十章六十一節六十一項の細別を以て遺ぜり世の蠶學者は勿論苟くも育蠶の業に從事するの士路標燈臺の榮を賞へ

松永技師石渡川島兩農學士校閲池田榮太郎先生著

日本蠶病新書

最新刊蠶書
精細挿入
正價廿錢
郵稅廿四錢

本書は蠶病消毒に關する瓦斯體と液體との各種の方法と其効用とを詳說したるものにして蠶家の必ず一讀ざるべからざる最良最好の一大奇書也弱刊以來僅かに六ケ月にして一版已に盡きんとす蠶病消毒の有効なるの士一讀其効を会ふせよ

發兌元　東京日本橋區箔屋町十四　丸山舍　京都上京區中立賣通七本松東入　丸山舍支店　大阪川口本田三番町卅二番　丸山舍支店

在大學院蠶病專攻農學士大森順造先生著(三版)

日本蠶病論

總クロース金文字入最上製本正價金貳圓郵稅十二錢

本書は著者多年實驗研究の結果蠶病の原因より其豫防驅除の方法に至る迄詳盡餘蘊なきの蠶業益々盛にして病毒倍々蔓延しつゝあるの今日此書實に蠶業界の救世主たり今三版目に成る修補訂正過上更に花を添へたり續讀を給へ

蠶業界ノ一大寶典

●古今未曾有珍書豫告●

農商務省農事試驗場長農學博士澤野淳先生序文
兼東京蠶業講習所長
東京帝國大學農科大學教授理學博士佐々本忠次郎先生校閲
前農商務省東京蠶業講習所技師農學士(河原改)廣瀬次郎先生著述

實驗蠶體生理

●近刊

●本書ハ目下印刷中不日製本出來仕候詳細ハ來月掲載ノ廣告欄御高覽ノ上御承知被下度豫告候

近年蠶病消滅法ノ一般ニ行ハルヽニ從ヒ蠶業上學理應用ノ利益頗ル大ナルコト漸ク世ニ知フルヽト雖トモ未ダ蠶ノ生理ヲ詳カニスル者少ナキヲ以テ尚或ハ無益ノ勞ヲ費シ甚タシキハ却テ蠶兒ヲシテ虚弱ニ陷ラシムルコトナシトセズ行ク蠶ノ天性ニ通ジ其機能ニ適應セザ蠶採桑ノ術ヲ施サバ更ニ幾多ノ利益ヲ增進スルヤ必セリ著者茲ニ蠶林病理ヲ公ニシ斯業ノ發達ニ著シキ効績ヲ擧ゲ名聲赫々タリ爾來研究ノ餘暇ヲ以テ本書ノ編輯ヲ試ミ先蠶ノ學術未ダ明瞭ナラザル所ハ學士自ラ實驗ノ勞ヲ省マズ一々其ノ成蹟ヲ集メテ本書著述ノ料ニ供シ是歸ヲ闡ラ一コト殆ンド三タビニ達セントシ其間ハ稿ヲ改メルコト數回ニシテ今ヤ完成シ佐々本博士ノ周到輔密ナル校閲ヲ經テ出版スルニ至レリ本書ノ通論及特論ノ二篇ニ別チ通論ニ於テハ先ヅ自然界ノ美ヲ說キ遺化ノ巧ヲ明カニシ家蠶ノ天性ニ及ボシ諸器官ノ構造及機能ニ就キ要ヲ摘リ頃ヲ避ケ加フルニ精密ナル顯微鏡ヲ挿入シテ一目了解ニ便ニシ特論ニ於テハ蠶ニ生理的作用ヲ詳述シ進ミテ實際ニ緊要ナル事項ヲ論及シ以テ大家蠶ノ本能ヲ發揮シ之レヲ實地ニ活動セシメンコトニ勉メタリ斯業ニ篤志ノ諸士蠶林病理ト共ニ本書ヲ座右ニ備ヘ學理應用ノ利益ヲシテ益々大ナラシメンコトヲ懇請ノ至リニ堪ヘズ

●發兌元　東京市神田區美土代町三丁目十四番地　明文堂

前農商務大臣正三位勳二等侯爵子爵太郎君題辭
農商務次官從四位勳四等藤田四郎君序文
横濱蚕糸檢査所長正六位勳五等岡毅君序文
横濱蚕糸檢査所技師檢査部長正七位勳六等高橋信貞著述

製絲法

全一冊　洋裝美本
四十有餘の細圖入
實價壹圓
郵稅拾錢

水書は本邦機械製絲場の模範たり仏蘭西國製絲所の創設に際し業務主任人ボーンヴリヨナ氏に受付屬託し業所の業務を指導すること九年後農商務省官員及業同者に在りて寡ち蠶絲の業務に練学せられ之を改善し増殖し天下に呼號すること二十餘年蠶絲界に雷名を轟かされたる技業故史高橋信貞君が積年の經驗と學理に徴し深能の熟識なる貴重なる古未発の貴書なり其稿論としては世界蠶絲業の大勢を詳論したる今古未発の貴書なり其稿論としては世界蠶絲業の大勢を詳論したる今古未発の貴書なり其稿論と蠶絲家の取るべき將來の方針を斷論し事を分つ十二、欲な説くる六十餘面として其技術に入りては四十有餘の精密圖を挿入して一々之を得失を詳論し製絲工場の撰定より工業經濟の敢て操縦、創業費用運の方法に至るまで大一として備らざるなし然real今回請ふて之を發刊し實價を以て廣く世に頒たんとす邦内の蠶絲業者に自治菊も意を邦家の富源に留むるの諸兵請ふ逸に御講讀あらんことを

明文常生敬白

本會々員諸君にして前書の購求を望まるゝ向は實價及郵稅を添へ御申込あらば直に發送すべし

大日本蠶絲會

正七位高橋信貞君撰

●世界各國産繭標本寫眞　全二葉解説一冊付實價廿錢　郵稅四錢

繭は生絲の兩眞にして生絲は繭の後身なり故に繭佳良ならざれば生絲も又佳麗ならざる能はず人皆之を知る然れども繭種の撰擇に至りては蠶々一ならざるを以て生絲の品位も亦之に從へるに諸君の熟知せらるゝところなり今や之れが研究を要するや之を一定錯駁の方針なく徒に方り汎くの熟知せらるゝところなり今や之れが研究を要するや之を一定錯駁の方針なく徒に方り汎くの産繭に就き研究せられたる各種繭に就き更に實地に撰ふ事なく徒に形なく寫眞のみ採集

●天日蠶廣告

一前號廣告ヲ參照スベシ●火力ハ太陽熱トハ同一温度ニ於テ既ニ蠶繭發育ノ狀況ニ非常ノ懸隔アル勿論ナレモ實際ニ當リテ太陽熱ノ優レハ飼育者ヲシテ今更ノ如ク驚嘆措ザラシム●普通繭ト天日蠶繭トノ差ハ第一光澤ニ於テ强靭力ニ於テ解舒ニ於テ全然別種類ノ觀ヲ呈シ天日蠶ノ優レル如何ニ無經驗者ト雖モ一見直チニ判別スベシ●生繭壹貫目ヨリ優等生糸百貳拾目乃至百四十目ヲ得ベシ●天日蠶ヲ飼育セバ自然ニ蛆害ト桑樹萎縮病ヲ全滅スルノ結果ヲ生ズ言甚タ奇矯ニ似タリト雖モ既ニ本年試育セシモノハ確乎不拔ノ眞理タルヿヲ疑ハズ●畔桑式栽培法（余ハ從來ノ栽培法ヲ指シテ斯ク云フ）ニ比却テ人力ニ於テ十分ノ八ヲ節減シ特ニ肥料ノ全部ヲ攝取セシム故ニ其結果ヤ慥カニ二倍以上ヲ得ベシ余ハ之レヲ增收ト云ハズ假リニ公定收量ト云フ萎縮病栽培法ハ往々自然收獲量即チ公定收量ノ衡ク三分ノ一ニ過ギザルモノアリ之ニ加フルニ地力人力肥料三者ノ大部分ヲ損失ス●天日蠶種ハ斷ヲ貯藏スル事ヲ禁ズ風雨霜雪日光ニ暴露シテ益健旺性ヲ增進ス彼ノ貯藏セザレバ害アリト云フ說ハ造化ノ法律ニ信ゼザルナリ是レ徇世界普通ノ二二ガ四ナル蓋數ヲ疑フニ等シ且尤モ奇ナル蠶種ノ貯藏ガ慥カニ繭病ノ重生ヲ誘因スト雖モ是レ伐採ハ一日モ早キヲ尊ブ處ノ理ニ反シ原因ナレバナリ但シ治療法ハ余ガ發明セル畔桑式ニ付テ知ラルベシ●之レヲ要スルニ蠶ノ原因ハ世人ガ最モ恐ルヽ處ノ所謂不順ノ氣候ニアラズシテ其最モ恐ルベキハ人間夫レ自身ニアリトハ覺ニ驚クベキ話ニアラズヤ萎縮病モ亦然リ故ニ余ハ萎縮病及ビ連蠶ノ輕重ハ人間ガ彼等ノ自然生活ノ狀態ヲ妨害スルヽ度ニ正比例スル事ヲ斷言ス●余カ桑樹萎縮病論ハ明治卅貳年十二月十三日發行ノ信濃毎日新聞ニアリ天日蠶ノ意見ハ本年四月七日ヨリ十日迄時事新報四月十日ノ時事新報ノ東京日々新聞東京朝日新聞五月十日ノ時事新報ニアリ●余ハ天日蠶畔桑式ヲ速ニ天下ニ普及シ以テ我國ヲ世界第一等ノ蠶糸國トシ世界生糸ノ供給權ヲ我日本ノ一手ニ掌握セシメン事ヲ期ス先ヅ第一着手トシテ全國各郡ニ壹ヶ所ツヽ天日蠶研究支部ヲ開設シ其郡ノ有力ニシテ熱心者ニ該所長ノ任ト天日蠶種一手販賣トヲ併セ托セントス有志者ハ速カニ申込マレヨ而シテ卅四年度ヨリ必ズ之レガ實行ヲ期シ關西地方ノ爲ニ琉球支部ヲ設立シ直ニ研究所ト事業ヲ企望者ニ天日養蠶術ヲ教授ス

開始セントス琉球ハ二月上旬ニ蠶發生シ三月中旬ニ上簇スルヲ以テ關西地方ノ早蠶場ノ傳習ニモ充分ノ餘裕アリ關東北地方所長企望者ノ爲メニハ熱海（伊豆）支部ヲ設立シテ尙琉球支部ノ關西地方ノ如クス熱海ハ三月中旬ニ發生シテ四月中旬ニ上簇スルヲ以テ是亦關東北地方者ノ通養蠶家ニ傳習シ得ラルベシ但シ本年度ニ於テ試育セラレシ人々ニシテ既ニ所長幷ニ一手販賣ノ地方ハ遺憾ナガラ申込ヲ謝絕ス通信傳習ハ此限リニアラズ●從來濕氣過量ノ地方少カラズ此等ノ地方ハ此限リニアラズ●從來濕氣過量ノ地方及ビ温暖地方ニテハ天日蠶ヲ行ハヤ非常ノ好結果ヲ奏シ糸ダ甞テ見ザル處ノ逸品ヲ得ベク且飼育ノ簡單容易ニシテ經濟ナル豫想ノ外ナラン座シテ生糸改良ノ目的ヲ達スベク又我長野縣ノ如キ寒國ハ天日蠶ヲ行ヽ因テ益蠶種ノ健康度ヲ高メ分業ノ趨勢ヲ急ナラシメ結局純然タル蠶種製造專業地トナルベシ

○天日蠶種販賣
○天日養蠶術幷に畔桑式栽培法通信教授

長野縣南佐久郡岸野村百五十九番地
大日本天日蠶合名會社業務擔當社員
木内宗藏

登錄商標　天日蠶

●會員諸君の寄稿を望む

蠶絲業に關する高見卓說及實地經驗せられたる事蹟は何卒御投稿被下度且又御見聞の次第も有之候ときは精々御通信あらんことを希望す
但表類等の紙面を多く要するものは成るべく其要領を文章に綴りて御報告相成度候

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會入會手續及會員心得

本會に入會せらるゝには左の事項を承知して申込まるべし

一住所氏名を詳記したる入會書に一ヶ月金十錢の計算を以て入會せらるゝ月より向ふ一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるべし

一會報は入會を申込まれたる其月の分より發送すべし

但し入會以前の會報を要望せらるゝときは一冊に付金拾錢を領收したる後之を送付すべし

一會費其他の金員を本會に送らるゝとき郵便爲替は拂渡局所を神田淡路町とし受取人を「大日本蠶絲會」とせらるべし小爲替證書は改正の郵便爲替規則に據れば受取人の宿所氏名及び拂渡局所を省略するを得べきことなれども右は途中紛失の虞もあるべきにつき爲替證書の表面右の方の欄内に「大日本蠶絲會」と記入せらるべし

爲替振込に不便なる土地なれば郵便切手一割增にて送らるべし

通運便に託し現金にて送らるゝ時は必ず配達賃拂濟にせらるべし

一會費金は毎年規定の通り（翌年の分は前年十二月中に）前納せらるべし

一氏名住所等を變更せらるゝときは其都度直に本會に通知せらるべし

一退會せらるゝときは必ず其月までの會費を拂込まれたる後にあらざれば之を了諾せず

一會員中死亡せられたるときは其家族又は其地方會員より本會に通知せらるべし

一質問書は半紙を用ひ一紙に一件を限り字體は成るべく明瞭に記し且つ何府縣何郡何市何村大日本蠶絲會何會員某と署名し又其質問を要する物件方言のみにして本名判然せざるときは成るべく現品を添へて送らるべし

一會費金を督促したる後猶出金せられざる者は之を本分の義務を盡されざる者と看做し本會規則に據り除名すべし

此心得は會員諸君常に能く了知せらるゝは勿論他人の入會を誘導せらるゝの際には殊に之を示されむことを要す

大日本蠶絲會